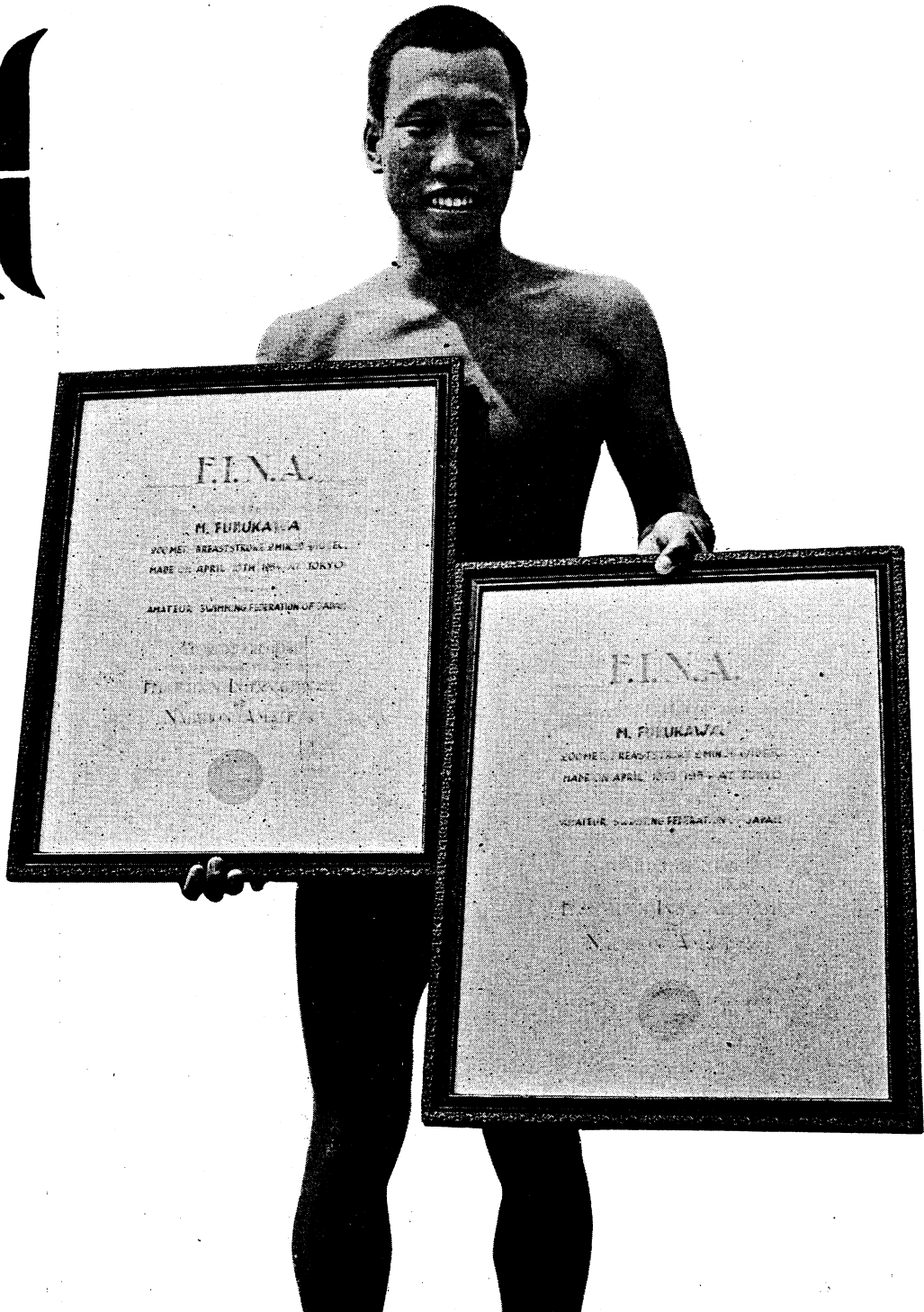


日本水泳連盟
機関誌

水泳

第 1 0 6 号
昭和 30 年 7 月

水



No. 106 "SUIEI" July 1955

NIPPON SUIEI RENMEI (Amateur Swimming Federation of Japan)

世界記録

日本記録

男子

100米自由形

R. クリーブランド アメリカ 54.8 ニューヘブン 25米 54

200米自由形

F.H. コンノ // 2:03.9 コロンバス 25碼 54

400米自由形

F. H コンノ // 4:26.7 ニューヘブン 25碼 54

800米自由形

F. H. コンノ // 9 30.7 ホノルル 100碼 51

1500米自由形

古橋 広之進 日 本 18:19.0 ロサンゼルス 50米 49

100米背泳

Y. オヤカワ アメリカ 1:02.8 ニューヘブン 25米 54

200米背泳

G. ボゾン フランス 2:18.3 アルチエール 25米 54

100米平泳

M. ベトルセビツク ボーランド 1:09.8 ヴロクラー 25米 54

200米平泳

田中 守 日 本 2:35.2 東京 25米 54

100米バタフライ

G. タンベク ハンガリー 1:02.1 ツェクフェラー 25米 54

200米バタフライ

長沢 二郎 日 本 2:21.6 東京 25米 54

800米リレー

エール 大学 アメリカ 8.29.4 ニューヘブン 25米 52
(W.ムーア・J.マツクレーン・D.シエフ・R.トーマン)

400米メドレー・リレー

早稲田 大学 日 本 4:17.2 東京 25米 54
(長谷景治・田中守・長沢二郎・谷訥)

女子

100米自由形

W.デンオウデン オランダ 1.04.6 アムステルダム 25米 36

400米自由形

R. ベーガー デンマーク 5:00.1 ヨペンハーゲン 25米 40

100米背泳

C. キント オランダ 1:10.9 ロツテルダム 25米 39

200米平泳

100米バタフライ

J.ランヂナウ 東 独 1:16.6 ト リ ノ 50米 54

400米リレー

全ハンガリー ハンガリー 4:24.4 ヘルシンキ 50米 52
(I.ノバク・J.テムス・E.ノバク・K.ツオウケ)

400米メドレー・リレー

全オランダ オランダ 5:02.1 ロツテルダム 25米 54

男子

谷 訥 早 大 57.0 振 甫 50米 54

鈴木 弘 日 大 2:06.8 神 宮 50米 52

古橋 広之進 日 大 4:33.0 甲 子 園 50米 48

古橋 広之進 日 大 9:35.5 ロサンゼルス 50米 49

古橋 広之進 日 大 18:19.0 // 50米 49

長谷 景治 日 本 1:06.9 ホノルル 100米 54

長谷 景治 日 本 2:27.9 // 100米 54

木村 基 城東高 1:10.6 大 阪 50米 54

胡麻鶴 寿 中 大 2:40.0 神 宮 50米 54

長沢 二郎 早 大 1:05.4 // 50米 54

長沢 二郎 早 大 2:28.6 // 50米 54

日本チーム 日 本 8:33.5 ヘルシンキ 50米 52
(鈴木弘・浜口喜博・後藤揚・谷川禎治郎)

早大チーム 早 大 4:23.0 振 甫 50米 54
(長谷景治・田中守・長沢二郎・谷訥)

女子

新子 富子 奈良県 1:09.8 天 理 50米 54

佐藤 嬉子 五条高 5:28.2 神 宮 50米 54

森前みどり 伊 都 高 1:21.6 // 50米 53

坂本 和子 五条高 1:25.6 神 宮 50米 52

浦畑チズ子 帝塚短大 1:25.8 大 阪 50米 54

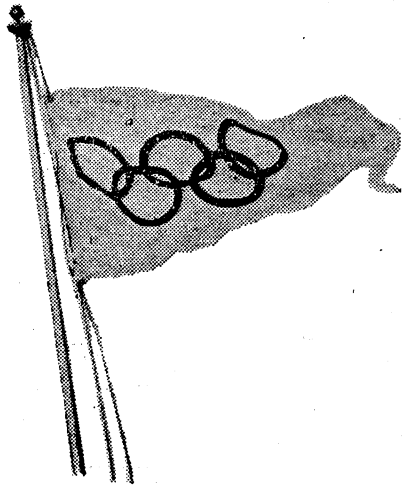
奈良県 4:44.0 天 理 50米 54
(田村美佐子・宮部シズエ・佐藤嬉子・新子富子)

大阪府 5:31.8 天 理 50米 54
(森前みどり・青木政代・浦畑チズ子・山下貞子)

メルボルン大会のために.....	田 畑 政 治.....	(2)
競泳春季合宿練習会報告.....	根 上 博.....	(3)
今シーズンの展望.....	古 橋 広 之 進.....	(4)
日米対抗と今年のホープ.....	木 村 象 雷.....	(6)
今年 の 早 慶 戦.....	胡 麻 鶴 寿.....	(8)
早慶対抗水上競技飛込競技観戦記.....	原 秀 夫.....	(8)
早慶戦の練習とレースに就て.....	村山修一・赤樫卓爾.....	(10)
今年 の 三 大 学.....	長 沢 二 郎.....	(12)
三大学対抗戦に望む事.....	原 秀 夫.....	(13)
三大学対抗の練習とレースに就て.....	太 田 光 雄.....	(14)
関東学生水球リーグ戦総評.....	名 取 正 也.....	(15)
『泳法研究』シネグラフ.....		(17)
水 泳 問 答		(25)
「ライフ・タイム」スプリングボードに就て.....	原 秀 夫.....	(31)
『コーチ・メモ』競泳の指導.....	宮 畑 虎 彦.....	(32)
城 義 核 先 生 を 悼 む	白 山 源 三 郎.....	(33)
シンクロナイズスイミングに就て.....	串 田 正 夫.....	(34)
昭和30年度前半期競泳10傑表.....		(38)
第 27 回早慶対抗水上競技大会記録		(39)
第20回三大学対抗水上競技大会記録.....		(40)

昭和30年度主要行事日程予定

6月5日(日)第27回早慶対抗水上競技大会.....	神 宮 プ ール
6月12日(日)第20回日・立・明三大学対抗水上競技大会.....	神 宮 プ ール
6月20日(月)ヨリ26日(日)マデ 水泳指導者講習会並びに検定試験	
7月21日(木)・22日(金)・23日(土)・24日(日)昭和30年度日本選手権水上競技大会.....	神 宮 プ ール
7月22日(金)ヨリ30日(土)マデ 水泳教室.....	天 理 プ ール
8月5日(金)・6日(土)・7日(日)第4回日米対抗水上競技大会.....	神 宮 プ ール
8月6日(土)・7日(日)北海道高等学校選手権水上競技大会.....	札 幌 中 島 プ ール
8月10日(水)・11日(木)東 北	岩 手 県 金 田 一 プ ール
8月10日(水)・11日(木)関 東	神 奈 川 県 鎌 倉 プ ール
8月2日(火)・3日(水)中 部	福 井 県 福 井 三 秀 プ ール
8月5日(金)・6日(土)近 畿	大 阪 プ ール
8月6日(土)・7日(日)中 国	岡 山 県 岡 山 県 営 プ ール
8月6日(土)・7日(日)四 国	高 知 県 高 知 市 営 プ ール
8月6日(土)・7日(日)九 州	福 岡 県 瀬 高 町 プ ール
8月13日(土)・14日(日)日米対抗水上競技大阪大会.....	大 阪 プ ール
8月 日米交歓水上競技大会.....	高 知, 八 幡, 呉, 天 理, 名 古 屋, 浜 松
8月19日(金)・20日(土)・21日(日)第23回日本高等学校選手権水上競技大会.....	神 宮 プ ール
8月20日(土)国民皆泳大会.....	中 央 会 場
8月27日(土)・28日(日)第6回全国勤労者水上競技大会.....	浜 松 市 プ ール
8月28日(日)全日本中学校水泳通信技競大会.....	各 都 道 府 県 会 場
9月3日(土)・4日(日)第28回関東学生選手権水上競技大会.....	神 宮 プ ール
9月9日(金)・10日(土)・11日(日)第31回日本学生選手権水上競技大会.....	神 宮 プ ール
9月22日(木)・23日(金)・24日(土)・25日(日)第10回国民体育大会水泳競技大会.....	鎌 倉 プ ール



メルボルン大会

のために

田畑政治

メルボルン・オリンピック大会を明年に控えて、関ヶ原の合戦を前にしての夏の陣にも比すべき第4回日米対抗水上競技大会を華々しく開催することとなつたが、過去3回の実績を見ても日米対抗に勝つた国が例外なく、次ぎのオリンピックには優勝している。第1回、第2回の日米対抗は日本の勝ちに帰したが、夫々その翌年のロサンゼルス大会、ベルリン大会には日本が優勝し、敗れた第3回日米対抗の次ぎのヘルシンキ大会には日本は惨敗を喫している。黄河を制する者が中国を制すといふ言葉があるさうだが、水泳の世界では日米大会に勝つた国が、世界水泳界の王座を獲得することになつてきているのだから、共に世界第一の水泳王国を以て任ずる日米両国にとつては負けるに負けられない一戦である。

その為めか、米国は非常に採点にこだわつて、従来の日米対抗は競泳対抗であるといふ鉄則を打破つて、飛込競技を加へることを絶対の条件として固執し、若し競泳に於て劣勢の場合は飛込の得点でカバーしても、日米対抗優勝といふ名目をとらうとしている。伝統を破るといふ無理までして、兎も角、優勝といふ名前だけでもとらうとするのは、その勝敗から受ける心理的影響が、来年のオリンピックの勝敗を左右すると見てのことであらうが、その米国の気持は吾々にもわからぬことない。

私はアムステルダム・オリンピック大会に日本代表団を編成すると同時に、日本水泳連盟の名誉主事となつて、日本水泳界の中心に立つた。私はアムステルダムの結果を見て、やり方に依つてはオリンピックに於ける日本の優勝は不可能ではないといふ自信を得て、それから四年間計画的にその実現に没頭した。その前提として急いだことは第一に日本水泳

界の統一、第二に完全な競技場の建設である。そこで先づ日本水泳連盟と対立的立場にあつた日本古来の流派泳ぎで組織していた日本游泳連盟を水連の中に発展的解消させ、次ぎに学生競技者を擁して、日本水泳界の実力を一手に握つていた全国学生水上競技連盟を水連の傘下に収め、日本水泳連盟を名実共に唯一無二の日本に於ける水泳の統轄代表団体の資格を完成すると共に末弘会長、松沢君等に共に当時の鳩山文相、体協会長岸先生、神宮奉賛会長坂谷男爵等の熱心な支援に依つて、世界に於ても有数の神宮プールを水連の手で完成して世界制覇の前提を整備した。一方、中央の活動に刺戟されて、肝心の競技者の方は全国各地の熱心な指導者の努力によつて、中学生から宮崎、牧野、北村、小池、遊佐、横山、大横田君等世界水準を突破する超大物が、輩出して日本水泳界は嘗てのヨーロッパを席卷したジギスカン勢の盛観を再現し、戦わずしてオリンピックに勝つ形相を呈した、そこで、私はロサンゼルス大会の優勝を不動のものとするためには、オリンピック前に世界第一と自認している米国をたたいて日本の少年選手に白人恐るるに足らずという自信をつけさせると同時に相手に日本の少年恐るべしというひげ目を感じさせておく必要があると思つて、第1回日米対抗を開催した。結果は日本の圧勝に帰し、雪崩れの勢いで、ロサンゼルス大会には最も確実と思われた400米の優勝を逸しただけで、全種目に優勝し、国際オリンピック委員長ブランドーヂ氏の言に依れば、一挙に日本を世界一流のスポーツ国に押し上げた。

新人輩出の萌の顕著な現在の日本水泳は將にロサンゼルス大会前夜を髣髴たらしめるものがある。日米対抗で再び、コンノへ、ンリツクス君を作り上げる愚を繰り返すことは止めよう。飽くまでメルボルン大会の跳躍台たらしめなければならない、敢て選手諸君の奮起を要請する以所である。

春期競泳合宿練習会報告

根 上 博

期 日 昭和30年4月29日—5月5日

場 所 横須賀観光ホテル室内プール

参加選手 自由型 (15名)

指 導 者 コーチ 根上博 (自由型) 芦田拓郎 (背泳) 長沢二郎 (平泳, バタフライ) トレーナー 吉田勝平 マネージャー 伊藤謹平

自 由 形

坂井逸次 (三潞高) 増田勲 (日大一高) 岡田洋一 (中京高) 金谷修作 (田辺高) 上本正義 (国泰寺高) 山中毅 (輪島高) 池尻月男 (山鹿高) 坂梨公昭 (山鹿高) 水野時彦 (磐田農) 八木清三郎 (夕陽丘高) 坪田暲 (杉並高) 福井誠 (浜田高) 北村忠夫 (桐蔭高) 中谷康彦 (鶴城高) 鈴木高行 (勝山中)

背 泳 (8名)

富田一雄 (三潞高) 二宮英雄 (江南高) 山口定市 (安房一高) 増岡正 (浦和高) 徳永誠哉 (山鹿高) 沼忠度 (柳井高工) 鈴木宏昌 (浜北高) 藤原 浩 (観音寺一高)

平 泳 (7名)

木村基 (城東高) 窪昭博 (五条高) 仙葉元昭 (成蹊高) 大山勝 (法政二高) 豊池守 (立教高) 鈴木富士夫 (中京高) 浜上洋 (鳥取高)

バタフライ (8名)

渡辺進 (下田北高) 渡辺常也 (下田北高) 堤育郎 (早稲田高) 最上義則 (蔵前工) 松田文治郎 (中京高) 橋田良則 (観音寺一高) 佐野武司 (安房一高) 小宮 (安房水産)

起床 6.30 朝食 7.00 練習 9.00—10.30 (体操) 10.30—12.30 (競泳) 昼食 12.00—12.30 練習 14.00—18.00 (競泳) 15.00—17.00 (体操) 夕食 18.30 座学 19.30—20.00 消灯 21.00

今回の合宿練習会の目的は冬期練習会の目的の延長であり、メルボルンへの道の歩みである。只シーズンに直結するこの時期を撰んだのは合宿の効果が各選手の今シーズンへの良きスタートになることを期待し今夏及び明年には若い層の選手諸君によつて日本水泳界の中心を型造つて貰うといつた構想の下に企画されたものであろう。日課は前述の通りで午前の体操は久里浜体育館を使用した。この体育館は立派な施設であり、こんな処で体操をじつくりやれたので体操に対する認識をあらたにし極めて有効で

あつた。午後の体操はプール屋上や室内を利用して行つた。競泳の練習は1日6時間で天候気温に影響される心配はなかつたが、何んといつても4コースでは狭く、参加選手諸君には満足のおゆく練習量もてなかつた。特に各種目毎の使用時間には制約があるので個々の選手について十分泳ぎの研究することができなかつた然し泳ぎの根幹となるべき点については十分納得のおゆくよう指導した。特にバタフライのドルフィンキックに関しては前回に引続いて長沢コーチが熱心に自己の創案した技術を細かい点迄披歴して指導に当つた、只今後の問題としてフロッグキックで相当の成績を収めていた選手諸君は足首、甲等が使用法の相違から柔軟なビートができずゆき悩んでいた。この点クロールや背泳も十分やれる足首の柔かいビートの強い選手がドルフィンキックを早く呑み込んでいい成績をあげるのではないかと考えさせられた。自由型と背泳の選手にはサマソールフリップ、ターンを常時行うように練習をさせて見たが頑張つて泳ぐ時には極めて少数の諸君だけがやるくらいで、自由型短距離や、背泳の選手がどのレースでも全員が早いターニングをするためには選手を育てていられる指導者の方々に嚴重にやらせて頂く以外方法ないことを痛感させられた。又体操についても冬期合宿に参加した選手は体も柔軟で1時間位の体操に堪えられたが今回初めて参加した選手は始め仲々苦痛であつたようでシーズンオフの間は十分体操が行われるよう普及を計るべきではなからうか、更にいうならばシーズン始めには水に入る時間が少ないので泳ぎを作る上の体操があり、シーズン中は練習のための準備体操、激しく泳いだ直後に緊張した筋肉を軟かく戻としてやる体操等があつてもいいのではないだろうか、この合宿練習は僅か1週間に満たない短期間のものでありプールも狭く十分練習量もてなかつたが選手諸君は自己の立場と明日への希望に燃えて積極的に練習統制下に入り熱心に又敏速に行動して時間の無駄なく練習にはげんでくれたので予期以上の成果を上げることができたと思う。合宿の最終日5日の午前は各選手に2種目宛泳いで貰つて参考記録をとり、練習に換えたが全員極めて元気にシーズン始めとしては好記録の続出で今シーズンに於ける大活躍を期待することができたことはコーチとして欣ばしいことであつた。

今夏の展望

古橋 広之進

毎年シーズン初めの事でもあるし、余り期待されていなかった早慶戦、三大学対抗戦も近來にない予想外の好記録の続出で、ヘルシンキ以来幾分スランプ気味の日本水泳界に大きな希望をもたせ目前に迫った日米対抗戦、又來年のメルボルン大会に多大の期待がかけられている。

□.....□

先

づ短距離から行けば古賀、谷、鈴木が今シーズンも最も期待のかけられうる選手で、特に古賀の進境は目指しいものがあり、今夏更に56秒台突入も決して夢でなくなつて來た。彼持前の強い腕と足に一層のさえを見せ、今年の泳ぎは全くすばらしい、もう少しシーズンも深まれば尙泳ぎにエンジュク味を加える事だろうし、彼の持つ不敵のフアイトと若さで世界のNo. 1にのし上る事だろう。これに次いで谷、鈴木であるが、この二人は一応既成された選手で古賀程の新鮮味はないが、彼に続く短距離泳者として活躍してくれる事だろう。谷は相変らず試合には練習のタイムさえ出し得ないが、心を落着け今年あたりよりは古賀と共に56秒台をものにしてもらい度いものだ。谷の泳ぎはまとまつた外見の良い泳ぎであるが、手足ともに何か物足らなさを感じられる、勿論手足を強くする事も必要だが、泳ぎが立ち過ぎており力の浪費も甚しい様に思われる、もう少し頭を下げて泳げば全身に力が入り、理想的な泳ぎになるのではなからうか、最後に鈴木であるが、このところ2年ばかりのスランプからやつと抜け出し、そのカムバックは強く買われているが、往年の鈴木の大偉力はもはや去つた感があり、泳ぎも幾分変つて來た様だ、今年の彼のカムバックの大きな原因は、長距離を泳ぎ込む事によつて、彼持前の足が元どおり強くなつた事と、それにより腰がよく坐つて來た事だと思ふ、三大学の泳ぎはスプリントさえなかつたが腰の落着いた安定した感じがあ

り、今夏あたりは若い連中を向うに廻して案外活躍してくれるかも知れない、この三人について清水、浜島、堂崎あたりも幾分さえては來たが、まだ二流どころで後一ふんばり頑張つてもらいたいものだ。

□.....□

次

に長距離だが、ヘルシンキ後山下、新宅等世界的な選手の輩出で長距離界の伝統はようやく保たれているものの、安定した本当に頼れる選手が少く一まつの淋しさもある、長距離は種目中簡単の様で難しいところが多い。よく研究して泳いでいないと何時の間にか泳ぎをわすれて消えて行つてしまう事が多い。それでも今年の長距離は相当充実を見せて來たから面白いレースが見られると思つている。今年のホープは大野、青木、新宅、留川、庄司、山下、池尻あたりで、特に大野の進境は著しい、練習熱心がものをいつてやつと本調子が出てきた様だ。ビツチに頼る一見面白い泳ぎだが、このところよく手に水がかかつており足も手のバランスをよく助けよく進む様になつた、然も従来より意識して下げた関係から泳ぎの姿勢に無理が無くなり、今年あたりは相当のところで進出されると予想している。特に従来なかつたスプリントが出来て始めから飛び出す泳ぎを覚えたからこのまま進めば18分30秒の線まで行けると思ふ。これに次いで青木もカムバックしたが、まだ試合となると堅くなつて持前のスプリントが使えず、出足の悪いのが目立つが、今年には相当自信をもつている様だから、あなどれない、新宅は今年には余り泳ぎ込んで居らず、期待はずれを感じがするが、若い選手であるし、のんびり泳いでもらい、遠い将来の為に精進してもらいたい、体も出来て來たし、泳ぎもよいから遠からず進出を見せるものと思われる、留川も中々よい泳ぎをしているが、長距離に必要な今一步の頑張りがない様だ、体もよし泳ぎもよいのだから一ふんばりしても

らいたいものだ、その外庄司、山下あたりはそう期待も出来そうにない、唯高校生の池尻あたりは強引な泳ぎであるが、第一線に出て来そうだ。この外今年あたりは新人の登場を期待したいところだ。長距離も400になると選手が居らず、ずつと淋しくなるが、今年あたりは誰れかに40秒の線を切つてもらいたいものだ、一人切れば数人これに続いて切るだろうし、そうなれば400も見事なレースになる可能性が多い。

□.....□

平 泳はこのところ潜水泳法の完成で、予想外の大記録をうちたてて居り実に見事だ、この種目ははじめられて余り年月もたつて居らず、まだまだ研究の余知はあり、将来どの辺まで記録的に進出するかわからない、この種目は何といても潜水に一段のさえみせて今夏登場した古川の泳ぎは、実に無理のないこうした泳ぎに達したもので、練習をつむ事によつて35秒突破も決して多難のわざでない、これについて木村も中々よいが、まだぎごちなさと、潜る時と水上に浮ぶときにロスが多く古川の泳ぎに比べると未熟な感じがある、胡麻鶴、田中、戸上、雀とこの種目は優秀な選手を容して居り、今夏最も期待される種目の一つであろう。

□.....□

バ タフライも平泳同様新泳法の考案ですばらしい進境を見せてはいるが、まだドルフィンキックを本当にマスターしている選手が少く、そういつた意味では淋しくもあり将来もある、今のところ完全なドルフィンで光っているのは長沢、石本の二人で後はずつと隔りがある様だ、長沢は手と足のバランスのよくとれた腰の強い選手で、ピッチもよくあがり、まだ伸びる余地をもっている、これに次いで石本は長沢と較べて対照的な力の泳ぎで、足がすごく強く練習によつては長沢以上に楽しめる、腕も足も同様相当力があるが、まだ手足のバランスに何か物足りないところがあり、練習不足も手伝つて本調子ではないが、泳ぎ込む事によつて特長をのばし早く20秒台でとんでもらいたいと思う、この二人を除いてはドルフィン、蛙足とも優秀だと思われる選手は少いが、今後大いに活躍出来る種目である。

□.....□

背 泳は戦後他種目に立遅れ、いろいろと注目のまとなつて来たが、日本人は決してこ

の種目に不適合ではなく、この種目の泳手が多くなれば自然に強くなる種目である、それでも長谷の出現で幾分見通しは明るくなつたが、後継者続かずで、相変らず、頼れない種目である、要するに日本の選手は足が必要以上に弱い事と、バツクとしての姿勢に幾分無理がある様だ、外国選手の泳ぎとは比較にならない程力がないのも目立ち、大いに学ばなくてはならない、長谷に続いて富田、山下あたりが有望だが、7秒台に突入しないとちよつと話にならない。

□.....□

以 上大体今年活躍を期待される選手について簡単に述べて来たが、確かに今夏の水泳界の進境は目指しく来るべき日米対抗戦をよき力試しとして来年のメルボルンにはヘルシンキの汚名をぬぐいつてもらいたいものだ、日本の水泳界は多少の新人の登場と、従来の選手が主体で頑張つて居るが世界的にみて今年あたりは選手入替の時期で、古い選手は少しづつ衰えて来たし、そういつて新人の登場もなく、相当レベルは下つて来ている様だ、今一步頑張れば世界制覇も可能だと思われる。

何れにせよ今夏の水泳界の活躍は近来にない見物で今から楽しませている。

役員 消息

◎学生部会長西本竜三氏

三菱石油株式会社大阪支社長に栄転され、本年一月大阪に赴任された。

◎理事長藤田明氏

横浜ゴム製造株式会社、本社営業部調査員として7月6日大阪支店に赴任された。

◎常務理事情川正二氏

兼松株式会社=ニューヨーク支店駐在を命ぜられ、7月22日羽田発PAA機で出発された。

◎常務理事小山賢之助氏

大正海上火災保俵株式会社静岡支店長に栄転され、7月赴任された。

日 米 対 抗 と

今年 の ホ ー プ

木 村 象 雷

日本勝つか、アメリカ勝つか、昭和25年から5年ぶりに日米対抗水上の行われる夏を迎えた。

日米対抗水上はオリンピックの前哨として、オリンピックの2シーズン前に開かれてきたが、メルボルンは明年の11月の終りから12月はじめに開かれるので、ことしの夏が2シーズン前にあたるわけである。

従来の日米戦は、日本にとつて、オリンピックでの飛躍のために、大きな刺戟を与えてきた。同時にアメリカのためにも、非常に大きな役割を演じてきたことは争えない事実である。

古くはロサンゼルス400に勝つたクラブ、ベルリン400で勝つたメデイカ、ヘルシンキ1500で勝つたコンノなどいずれも日米戦で自信をつけて成功した選手達である。

昭和25年の日米戦は、接戦の予想がくつがえされて、日本は古橋が200、400、800に勝つたほか、12種目中9種目に1位をとられて惨敗している。

当時をふりかえつてみると、その前年に古橋、橋爪などの選手がロサンゼルス全米水上に出場、100を除く自由形全種目を席捲し、戦争で白紙にかえていた日本水上に、また世界制覇の望みが湧いてきたばかりのときであつた。

その鼻先きを、日本のホームプールでペシヤンコにやられたわけだつた。日本が負けた理由を考えてみると、アメリカ側には前年の全米水上で日本選手の活躍を見たあとの奮起があつた。また日本側には量の少い第一線選手が足踏みし、これについてゆく新人群にこれといった選手が出ないという現実があ

つた。日本のこの状態はヘルシンキにも続いて、橋爪、鈴木などの健闘はあつたが、優勝者を一人も出せない成績に終つた。

さて、メルボルンでは、どんな成績が出るか、ことしの日米水上の結果も面白いが、ひいては日本のオリンピックでの活躍如何を占うカギは、今夏の対抗戦にあらわれると思うときに、さらに興味は倍加されるのである。

まだことしのシーズンは浅く、早慶、日立明三大学のほか大きな競技会が少ないので、8月までにどんな選手が出てくるか見当もつかないし、アメリカの方も、4月に終る室内シーズンの成績にハワイのナカマ記念水上のレコードぐらいしか知り得ないので、ことしの日米水上の前途を予想するには、あまりに資料が少ない。わずかな資料と、観測をまじえて(多少希望的観測のまじることは許されたい)レースを展望してみよう。

100は日本側は古賀が57秒2、谷が57秒8、鈴木が58秒4を出している。米はスコールズが57秒7でパンアメリカンで優勝、ギデオンス、アームストロングの二人が57秒8、クリーブランドが58秒0といつた順だが、谷は昨年57秒0を出しているのだから、古賀、谷で1、2位とゆきたいところ、鈴木がヘルシンキの頃まで回復すれば、3位まで独占という形になるが、辛く見て日5米1と見ておこう。

200はコンノが2分4秒0、ウーズレーが2分8秒8、アームストロング2分9秒5、日本は鈴木が2分9秒6、古賀2分10秒0、谷2分12秒8、大分米側がまさっているが短水路だから割引を要する。

日本選手が2分6秒に上れば勝てると思うが、それもゆかないとなるとコンノに1位を譲るのもやむを得ない。2, 3位を守るとして日3米3。

400は日本選手にとって4分40秒が大きな関門のようだ。一昨年山下が4分38秒2を出して以来、庄司も新宅もこれが切れなかつた。短水路のコンノが4分28秒2(長水路4分36秒台)長水路でオネケア4分38秒5, ウーズレー4分42秒0に比べ大野の4分43秒8, 青木4分45秒6, 留川4分46秒2では勝味が薄い。そのうちに誰かが飛びだして来るとは思うが一応日0米6と見ておこう。

800米は米側にことしの記録があまりない。日本のいままでのベストは大野9分47秒4, 青木9分51秒2, 八木9分59秒8でこれからいずれも伸びようとするところ、だがコンノが出るとなると必勝はむつかしい。9分40秒を出されると1位がもつてゆかれる。日本側がまずかつたとして日3米3。

1500米ではコンノは一昨年は山下に、昨年は庄司にやられたので敬遠して出ないのではあるまいか、するとオネケアなどが顔を出してくると思われる。日本側は大野, 留川, 庄司, 青木, 八木, 足立と18分台の聞けそうな選手がそろつているのでオネケアが驚異を示せば格別、日本側がスイープすることも可能日6米0。

100米背泳はオヤカワは短水路で1分2秒5 長水路にすると1分4秒5の好調で長谷が1分6秒を出したところではかなわない。長谷は1分7秒1のマッキー-, 1分7秒6のバルケを破らねばならない。マッキー-のは長水路だから長谷の荷は重いが日2米4, 富田もこれから伸びるだろうがまた1分9秒2しか出ていない。

200米も順位に変わりがないとして日2米4。

バタフライは100の方はウィギンスが短水路でも1分1秒5の世界記録を出しているので、長沢もこれに食われるとして日3米3, 200の方は長沢に石本が続いて2分34秒8に進んだ。米にはドレーク, ジェコ, ヨルジクと3名の2分31秒台がいるが、短水路だから石本, 安岡のどちらかに勝味があるとして日5米1。

平泳は200で米側ガウボイ2分38秒6, ハリソン2分38秒9, マトソン2分40秒0何れも短水路で、古川, 田中, 戸上, 木村とならんだ世界一線級には

歯が立つまい。100も200も日6米0。

残つたリレー3種目で日本が勝てそうなのは400混継だけ、400継と800継は米にやるものとして点の合計は日44米41となつた。これに飛込も採点することになると米に1位がもつていかれるので同点になつてしまう。

日本選手は大会までに大いに伸びることだろうしアメリカの方も、相手が日本だというので張りきつてやってくると思う。そしてこの遠征で力を非常にあげるものも必ず出ると思う。前に数えた採点は日米双方の波の立たない平水での計算だが、双方が激突し、波高く、沸騰し、渦をまく光景は、日米対抗の当日、見せてもらうことにする。

新人を数える

アメリカの方ではマクレーン, クリーブランド, コンノ, オヤカワと古い選手がなお活躍している。ヘルンキ当時の選手でいまなお活躍している日本選手は鈴木, 後藤を数えるに過ぎない。

一昨年のホープ山下, 細間に当時のおもかげが薄れ、昨年の庄司も今シーズン大野に先を越されている。昨年の長沢に長谷はことしも大活躍するであろうが、どうも新人のホープの命脈が短か過ぎる。とくに自由形中長距離に甚だしい。

新宅が今シーズンまだ埋もれている。もし山下, 庄司, 新宅が各ベストコンディションにあり、新たに頭を出した大野に加わろうものなら、これらの競り合いから日本長距離は磐石を加えるに違いないのだが。大野選手が急ピッチ泳法で乗り出したことは、また水泳界にストロークか? ピッチかの話題を投げるに違いない。ピッチといえはむかしの牧野, 田口などの初期はストロークの考えよりピッチのみで泳いでいた。それがストロークに大成した。うまくなつた大野選手も腰のバランスに新しいリズムを会得したようで、今後の洗練が待たれる。高校では長距離の八木(夕陽丘)金谷修(田辺)背泳の富田(三瀬)平泳の窪(五条)が乗りだした。年々オ々新人は輩出しているが、大成の一步手前で落ちてゆくものも多くなつた。そこには何かの理由があるのであろうか。

(6月末日)

(背泳元早大主将 アムステルダム・オリンピック参加選手 現在産経大阪本社運動部長)

今年の早慶戦

胡 麻 鶴 寿

競泳シーズンの開幕を飾る恒例の早慶戦は好天気
の6月5日神宮プールで気温28度水温23度のコンデ
ィションで2時試合開始。この日は観衆八千を集め
る戦後最高の人出でスタンドは初夏をしのぐ白一色
でにぎわった。試合は予想通り早大の楽勝で対抗成
績26勝1敗とその差を大きく引き離し幕を閉じた。
早慶対抗戦というものの早大は、8種目全都にタイ
トルを握り、100メートル自由形で古賀の今までみ
られなかつたラスト・スパートものすごく57秒2の
大会新を始め、対抗戦らしい試合を演じた。200
メートルバタフライは実に面白いレースを展開。

昨年迄自由形長距離泳者だつた山下(慶大)が果
敢に飛び出し100のラップをうばいベテラン多田
(早大)等の早大陣を後退したかと思わせたが練習
不足の色が後半にあらわれ3位に落ちた。たとえ3位
におちたというものの伝統あるこの試合山下(慶大)
の力泳で慶大は0敗をまぬがれ只一の1点を獲得し
た事は外ならぬ慶大陣の喜びであつたにちがいな
い。試合前迄どこへ行つても口ぐせの様に疑問はも
つてたが自由形長距離選手山下(早大)のキャンバ
ックを伝えた。しかし試合には400メートルで浅野に
破れ4分53秒2、1500メートルは優勝したものの19
分36秒4の好記録出す淋しかつた。今年は8月に日
米対抗が行われ、明年はオリンピックがあり山下に
とつても大事な年である。今の泳ぎでは一昨年コン
ノを破るあの力泳のキャンバックは無理の様だがまだ
シーズン始めの事だし完全に水にのつてない所等
これからもあせらず世界的泳者になつた以前の山下に
返り、のんびりとした気持で泳ぎのバランスを得、練
習に一層研究をつんで行けば日米には期待出来なく
てもオリンピックには期待大である。シーズン始め
にはいつもそう強くない山下(早大)の事でもあるか

らことによると今シーズン中飛躍して存在を新たに
しめすかも知れない。

背泳では長谷の記録1分8秒8は日本背泳界に長
谷の健在である事を知らせた。又昨年1分8秒2こ
の記録をマークした黒佐にも好記録を期待してい
たのだがレース前の水球試合に参加しレースには力
をフルに使ひ泳ぐ事が出来なかつたのは少しきのど
くな様だつた。黒佐とて水球に出場してなければ長
谷と背を並べて面白い試合をしただろうに誠に残念。

平泳に於いては田中(早大)の独泳で変化のない
レースかと思われた所、新人太田(早大)が潜水泳法
で対戦、スタートから田中によくくいさがり150ま
ではよく健闘し同タッチで後の50メートルをむかえ
た。しかしラストに潜る田中が潜水威力にものをい
わせ2分46秒4とまあまあの記録で優勝。太田も潜
水泳法を始めてわずか期間であるのに2分48秒2
とシーズン始めとしては上出来だ。田中の泳ぎは昨
年にくらべタッチが早い様だ、その為各ストロー
クごとにのびが全々なく、どこかで不必要な力を消
滅している様である。それともラストに潜る威力を
たくわえているのではないか? 200のレースの時
前半の100のラップが1分19秒とはたとえシーズン
始めの試合といつても田中にしては遅い。試合前不
調とは聞いていたので泳ぎに自信がもてなかつたの
かも知れないがこれからの試合には前半から思いき
つて飛ばし自信を持つてレースにのぞめば試合上手
の田中の事だから2分40秒はたやすく切ると思う。

田中を最後まで苦しめたレースを展開した太田は
スタートから果敢に飛び出した事が成功したともい
える。試合前には誰れもが試合にたえられる様に猛
練習を行ない参加するのであるからペースの事は氣
にせず勝負はどのレースも前半で決まると思つても
過言ではなからう。

早慶対抗水上競技飛込競技観戦記

原 秀 夫

当日飛込プールでの水温23度気温28度は早慶戦と
しては近年にない絶好のコンディションだつた。
1934年以来20年余り吹き続けた審笛から離れて三角

席に坐りゆつくりと飛込競技を見る事が出来たのは
何とも楽しい事であつた。

飛板飛込

1位になつた馬場君(早)は昨年より一廻り身体が良くなつた様だ、冬季練習の努力の結果なのか自然に恵まれて大きくなつたのかは知らないが過去の日本のダイバーの誰、彼を思い起して身体を比較して見たが今の馬場君ならば遜色はない、総体に助走と飛板の踏み方が上手になつて選択飛第三の走前逆宙返り一回半(蝦型)18点40は真に見事で一番印象に残つた。悪いものでは相変らず前宙返りのものがあまり巧くない、前宙返りの“掛り”というのは力よりも“スピード”が大切なのだと思う、従つて踏切る瞬間に力みすぎて“抱え”たり蝦型になつたりするモーションのスピードが遅れると高く上る事は出来ても廻転に無理が出来て後半に落ちてしまつたり流れてしまう場合が多いと思う。

2位になつた鈴木君(慶)は相変らず鈍重な感じが抜けない、今のままでは学生選手権で6位を争う選手以上には出ないと思う。それで素質がないかと云えば全く逆で一番恵まれた身体と素質を具えている選手の一人だと思う。彼が巧くなる為には普通の選手の二倍の練習量が必要である。そしてその練習に耐えて乗切れれば日本の第一線に充分に互し得ると思う、殊に一番不得手な走前宙返り二回半等に練習を集中してこの種目だけでも一日少くとも30回位の練習は必要であろう。

3位になつた山田君(早)は少し期待外れの感じだつた。2年程前に関西で見た山田君の印象から考えると6種目で60点では其後何も努力して居なかつたのではないかという酷評さえ生れて来る。幸に木村君(慶)の極端な不調で3位にはなつたが60点はひどすぎる。山田君の様な若いダイバーが今年あたりに急激に伸びて馬場、森沢、馬淵、清水といった様な日本の第一線級をおびやかす様にならなければ飛込はオリンピック参加も無理だろう等の言葉が一部の間に出来て来る結果ともなるのであり奮起を望んで止まない。

高飛込

飛板と同様に馬場君(早)の楽勝となつたが後前

二回半以外の種目は甚だ物足りなかつた。飛板の欄でも指適したが、あれだけ恵まれた身体と素質なのに何か気迫が足りない様である。その為彼一人ばかりでなく、高飛込競技全体について飛板飛込の延長戦みたいな感じで高飛込独得の雄大さ豪快さ等が殆んど感じられない。

観衆は総て観客席に座つて10米の飛込台を見上げている。飛込台の後ろには雲と空が見えている。高飛込というのは真直ぐに入水する事以前に先ず踏切の高さと強さが欠く事の出来ない要素なのである事を再認識して欲しい、高飛込の選手となる為には先ず10米の高さと入水時の烈しい衝撃を征服しなければならぬ。打つと痛いからとか、高飛込の練習は疲れるからとかいい乍ら飛んでいるハイダイブでは、どうしても飛板飛込の延長ともいえる“落ち込み”戦術になつて了う、練習過程においては腕を取られる、足を取られるという事は望ましくはないが当り前の事である。そして之を乗り越えた時に始めてどんな形に入水してもビクともしない本当の高飛込選手が出来上るのである。オリンピックに日本飛込の進出し得る道が飛板よりも高飛込だということが定説になつている現在でも向且つ一日10—20回の前飛(伸型)を飛んでいる選手が居ないとすれば何をかいわんやという事にもなつて来る。

2位の鈴木君(慶)は飛板よりも出来が良かつた様であるが規定飛の6.44点は酷い、矢張前述の通りの基礎練習の不足高飛込選手としての心構えの不足といわざるを得ない。

3位の木村君(慶)は飛板の時とは逆に山田君(早)の逆立ちの失敗3点に救われて辛うじて3位になつた訳であつて立派な成績とはいへ得ない。飛込に限らず総てスポーツというものは身体が実践するものであり、頭脳的に如何に優れていても身体で技を覚えているものでないと競技の時に絶対に成功しない、彼はこの機会にこの事を充分知つてもつと身体で覚え込む様にしてインタカレッヂその他に対して欲しい。

× × ×

× ×

×

早慶戦の練習とレースに就て

早大監督

村山修一

例年のことながら早慶水上戦はシーズン始めの前哨戦として各選手のすべり出しを打診する意味に於て関係者並に一般の興味をひく競技会であるが、ここ数年来慶応の凋落によつて、その対抗競技としての面白味をなくしたことは一抹の淋しさを禁じ得ない。

練習について

今年も慶応側の陣容により敗れるようなことは考えられないので、早慶戦はシーズン始めの公式記録会とでも考えて選手には先ず次のようなことを指示した。

1. 20日から30日迄は鍛練期間として記録に気をとらわれず出来る限り長い距離を泳ぎこむこと、
2. 基本的なビートの練習量を多くすること。
3. 30日は休養日とする、
4. 31日より3日迄は整調期間として一応計時してペースを研究すること。

然しながら低温の為にコンディションが悪く、選手自身も思うようには泳ぎこめず、私も大切なシーズンのスタートに当つて「体をこわしては」という気がしていたが、果して20日頃には谷だけが昨年的好調時と同様のトップコンディションになり、57秒0をマークしたのみで梶川、清光が発病し、練習を休む者も出た。

兎に角、皆例年よりは泳ぎこんだけれども、低温の為に自然積極的になれなかつたことは止むを得ないことであつた。

31日から午前中はロングをやることとし、午後はペースを研究する意味から一種目タイムをとることにしたが、結果そのものにはあまり気をとらわれず主として前半のすべり出しに注意し、特に短距離選手や長谷には50メートルをふつとばすよう、例えば谷、古賀には26秒から26秒4迄で折返すように註文をつけた。谷は57秒2,3はコンスタントに出し、古賀は序々に調子を上げて3日には57秒3をマークし

たので、この二人の中どちらかうまくすると56秒台を出るのではないかとひそかに期待した。山下については彼自身も一昨年の調子をとり戻すよう努力はしているが、あまり神経質になり過ぎないように注意するにとどめた。

レースについて

全般的に見ても可もなく不可もなしといった結果であつたが、中でも古賀が57秒2の大会新記録を樹立したことはこの日の最も大きな収穫であつた。古賀、谷の競り合いは見応えのあるレースであつたが、2人とも前半のすべり出しに26秒8から27秒もかかつてはスローペース過ぎると思う。然し古賀は相変らず持前のフアイトを燃やして、泳ぎそのものも力強くなり一段と積極味を増して来たことは全日本選手権及び日米対抗に期待が持てる。ペースの研究によつて今年は待望の56秒台のレコードが実現出来ると思う。谷は例の如くレースに弱いという印象を与えたことと思うが、調子が早く出過ぎ試合当日頃はやや下り坂にあつた為に泳ぎが小さく苦しいレースをしていたようだ。浅野、横田は調子が出るのが遅い選手だからこれからの練習によつていよいよ本来の強味を発揮するだろう。昨年の1500のヒーロー山下はシーズン始めから自覚して距離的には一番多く泳ぎこんでいたが、昨年のスランプ以来フォームに余り神経質になり過ぎている。まだまだ若いのであるから自分の泳ぎに気分的にもつと余裕を持つて泳ぎこめば自然に自信もついて来ると思う。何れにしろくさらずに練習を積みあげば好調時のフォームを再現出来るよう。

平泳の新人太田はアガツテいたと見え、潜水泳法が不規則で練習当時の強味が見られなかつたが、田中にもまれながら上昇して来た選手だけに今後に期待が持てる。長谷に望むことは思い切つたすべり出しを練習することだ。

総じて各選手とも悪コンディションの為に本格的に泳ぎこんでいながつたので、水に乗らず苦しい泳

ぎをしていたが、まあ予想通りの結果であつた。オリンピックの前年にふさわしい成果を今後の練習に

慶大監督

最近慶応の沈滞に伝統ある早慶戦が対抗戦の意義無しといわれている現在、又高度にスピード化されたレースに望むに、プールもなくチームとしての最低人員の半分にも満たない人員にて如何に練習し戦うか毎年学生は勿論の事先輩も何としても早大に一死報いなければと考えて来た。昨年の練習方法の失敗を反省し、今年こそ悔のない練習をと考えていた矢先き三鷹プールの使用禁止で凡ゆる面に制約を受けスケジュールを組む面に困難をきたした。1点でも得点しなければといつても、シーズン最後のインターカレッジの様な練習も出来ずやはり充分に基本的な基礎的な練習をマスターした上で合宿練習をし、スプリントなりペースをつかむべく予定をたてた。

(第一期) 4月20日～4月30日 5時より

ロング 1000
ビーティング 800

新学期で練習開始時間が遅くその上プール迄時間がかかり、夕方になると急に気温も下降し、もう少し距離を泳ぎ水に馴れる予定が実行出来なかつた。

(第二期) 5月1日～5月17日 5時より

ロング 1000～2000 (30分)
ビーティング 1000～1200 (20分)
ダウン 600

第一期は水に馴れ第二期にビートに主力をおき5月20日よりの合宿にそなえロングの途中でスピードを出しても泳ぎがくずれない様、泳ぎのバランスを作り上げるのが目的で此の期間こそ量的にも一番多く泳ぐべきであつたが、練習開始時間が遅くなり4コースしか使用出来なかつたので思う様に練習出来ず土曜日、日曜日しか満足に泳げなかつた。16日全員にスピードを出さして泳がして見た所泳ぎにならずそのまま川崎の合宿に入る。

(第三川崎合宿練習) 5月19日～6月4日

①鍛錬期間 19日～26日

午前 ロング 1500
ビーティング 1200
ダウン 600
午後 ロング 1500～2000
ビーティング 100×10回 (30秒休)
ミツテル 600

よつて得たいと思う。

赤 檉 卓 爾

ダウン 1000

23日頃打上げて仕上げに入るがまだ泳ぎ不足で26日迄続行しわけです。

②仕上げ期間 27日～4日

午前 ロング 1500
ビーティング 800
コンビネーション 600
午後 フリー(長)
レース 1000～1500
ビーティング 1000
ロング 1000
フリー短, プレスト, バタ, バック
レース 150, 300
ビーティング 100×6
コンビネーション 600
ダツシュ 50×4

400の練習方法として当然スプリントをつけペースをつかむ点に於て100ダツシュ4回はやらなければいけないが泳ぎの不足で1500に重点をおく、休養日に関しては必修課目は個人個人登校しているので31日迄は休養日をとらなかつた。然し非常にコンディションに個人差が出来たので6月1日より個人のコンディションを考えて練習する。

森 1日, 2日(午前, 午後) 3日 4日
ビーティング 2000 休養 4000
レグレス 2000 /
コンビネーション 1000 /

山下, 金原, 三井は新人であり自分でも良くコンディションをつかめないので引続き同じ練習を行い3日休養日とし4日300米泳ぎ試合にのぞむ。

以上が練習内容ですが練習不足を気にし過ぎ6月5日を忘れて泳ぎ込む事にのみ専念した結果となりました。三鷹プール使用禁止でどうしても量が不足がちになる事は判っていたのだからその中でスプリントなりレースに対するペースの練習もしなかつた事がそのまま試合の結果となり、又早慶戦のレースを非常に気分的に左右する400の練習も出来ずに試合にのぞまざるを得ない結果となつた事は、一番大きな間違ではなかつたろうか。



今年の大三大

長 沢 二 郎

伝統を誇るとはいえ余りにも一方的な勝負に終わった早慶戦を、この同じ神宮プールで、たつた一週間程前に観てきた眼には溢れるばかりの対抗戦的激しい競り合がこの大会を凄じい程迄に活気を作りだしていた様に見えた。

結局量を誇る日大の順調な勝利に終わったが、これは100米背泳を除く全種目に主位を奪った事を思えば当然の勝利でもあつた。

この日の最大の収穫は長水路世界新記録を樹立した平泳の古川君(日)である。

壁とみられた2分40秒を或は切るのではないかと期待はしていたが、2分36秒8には全く驚かされてしまった。彼の大記録の為に余り目立たなくなつてしまつたがバタフライの石本君、長距離の大野君(日)や800米の青木君(日)の記録はまだシーズン始まつたばかりのこの大会としては立派なものであり、背泳の新人山下君の進境振りも見逃す事はできないものであつたらう。

自由型100米はベテラン鈴木君(日)の順調な優勝である。タイムこそ少し悪いが泳ぎは殆んど完成されており美しい泳ぎに無駄のない事は今更いう迄もなからう。この種目で気がついた事一つ。50米のターンの時どの選手も依然として今迄通りのターンをしているなかで3コースの井原君(立)のクイック・ターンが目についた。結局5着に終つてしまつたが、この時隣の鈴木君との差を50程縮めた事を短距離の他の選手はどの様に考える事であらうか。

明大庄司君がどこ迄鈴木君に食い下るかと思つた200米も、鈴木君の全くの独泳の形、前半60秒8は決して早すぎるものではないがこの時既に4米以上も離されては他の選手は到底追い込む事は難しからう。もつと積極的なレースをする選手が少しはいて

ほしかつた。

予想もしなかつた800で優勝した大野君が急ピッチにものをいわせて400米のタイトルを奪つてしまつた。4分43秒8も良いが800米の9分47秒4は青木君の記録と共に、立派なものであつた。

水車の様な勢で手を搔く大野君が急ピッチで飛び出した時はどこ迄続くものかと疑つた程である。12コースで青木、留川君(明)が自己のペースでか悠々泳いでいるのと比較した時、遠く離れていた7コースの大野君の飛出しは或は策戦ではないかと思えた程だ。所が到頭最後迄逃げ切つてしまつた。然も堂々たる記録である。2位青木君、3位留川君は相応の記録であらうか。留川君は左手が中に入りすぎる様に思えたがどうだろうか。期待された新宅君は外耳炎の為に4位に甘んじたが今後の活躍に期待しよう。

背泳では倉橋(日)大久保君(立)らのベテランを押えて優勝した新人山下君(明)の1分9秒8は順調といえる所か。素晴らしい飛出しに比べてラストが少し甘いのは足がへばつた為であらう。

9人中の7人迄が潜水泳法を採用した平泳では驚く程の大記録を古川君が樹立した。

呼吸した時も泳ぎに淀みが無く特に引きつけた時の足の形が実に合理的である。凄じい程の馬力で大きな体躯がこの泳を身につけたのだから……とはいえ兎に角素晴らしい大記録であつた。他の選手はその為カスンでしまつたが、戸上、大石君(日)の記録も悪くはない。5位の石井君(明)は呼吸する時の大きな動作がスピードを著しく止めてしまつて見られたがもつと浅く潜つてこの弊害を少なくできないものだろうか。

バタフライでは鋭いキツクに物をいわせて好記録

を生んだ石本君の順調な勝利。前半9秒8は 適当なペースだろうか、後半も乱れる事なく泳ぎ切つた。伊達君(明)はラストで藤家君(立)に追いつめられたがタッチの差で3位になつた。足の蹴る有効な距離を今少し長くできないものだろうか、100米すぎると身体が少し立ちすぎる様にみえた。特に150すぎて藤家君に追いつめられた時には浮いた故かますます立つ様にみえたが焦つたのであろうか。4位藤家君の前半は少し遅すぎはしまいか。100米で石本君に6米、伊達君に3米程も離されていたが後半追いつめる事ができたとしても体が立つて泳ぎにくいと思うが予程好きなペースなのであろうか。100米を折返すと大分体が立つていた。ラストスパートでは相当ピッチをあげていたが、から搔きが数々見られた。

2位東山君(明)は中央の競り合に氣をとられて

良くは見られなかつたが、速いピッチに無駄がある様にみえた。もつと大きな泳ぎで確実に搔けばピッチは落ちて記録は上ろう。後半見た時引きつけた時に膝が開きすぎる。これはカエル足共通の最も警戒すべき抵抗を受ける。膝をつぼめて有効な推進力を生む為の蹴りだし点を払げるべく足首を開くべきだと思ふが、この点どうだろうか。

400メドレー、800リレーは日大の順調な勝ち、800リレーの第一泳者バタフライの石本君の2分11秒8は注目された。

結局試合全部を通じては背泳と中距離を除いては凡て世界的水準を示した。凄じい勢で上昇するこれ等の若人達の活躍によつて明日の日本に明るい希望をもたらして呉れた事は大いに力強いものであつた。

三大学対抗戦に望む事

原 秀 夫

既に20回を重ねた日立明三大学対抗水上競技大会は、日本国内は勿論、世界水泳界からも注目されている競技会である。その競技会の飛込が相変らず“模範飛込”の域を脱していないということは何とも合点がゆかない。然もこの“模範飛込”が日本一の飛込校日本大学の10名に余る選手の「独演会」となっている事は更に不思議といわざるを得ない。

曾つて早慶水上競技大会も競泳一本だつた歴史がある。然し当時日本一の飛込校だつた慶応大学の飛込選手が早稲田の選手をコーチして、一緒に練習をしてその時以来早慶戦は競泳と共に飛込競技を続けている。然も最近では、施設、選手に恵まれている早稲田の方が飛込でも強くなつて連勝を続けているといつた案配である。明大といえば前述の慶応が飛込が非常に盛んだつた頃それと肩を並べてオリンピ

ック代表飛込選手迄だした輝かしい歴史を持つている。立教といえば日本の飛込競技界の黎明期に故水谷泰夫という先駆者をだした学校だという事は一寸古い水泳関係者なら誰でも知つている事である。日大飛込部門が一人宛の飛込選手を遠慮して明大、立教に入つて貰い一緒に練習して、翌年の三大学大会に正式に飛込競技を実施する事がそれ程難しい事だとはどうしても考えられない。然も斯くする事によつて日大、早大、慶大の三校だけの出場者であるインターカレッジの飛込競技が更に多彩に点が割れて内容が充実してくる事も分り切つているとなれば、日立明三校のみならず学生飛込委員会迎りでもつともつと真剣に採り上げるべき一番重要な事柄ではないのだろうか。

三大学対抗の練習とレースに就く

立教大学監督

太田光雄

例年の通り5月1日より昭和30年度のアウト・ドアー練習に入った。今年は特に8月上旬に第4回日米対抗が行われる為、勢い前半の練習はこれ为目标にして、長い距離とビーティングに重点を置くスケジュールを組んだ。併しその前に三大学対抗があるのでこれにも各選手の今年度の調子を見る上に重要なので、途中この試合を加味して全体のスケジュールを多少変えて行つた。

そこで5月1日以前にも暖い日を選んで各自なるべく長く泳いで置く様にいつたので、1日からの練習にはもう割合泳ぎも整つて居た。

1日から2日ばかりは軽く泳ぎ3日目からは耐久力と泳ぎを作る為に、一気に1日約7000米を目標にして泳いだが学業の都合で練習時間が少く、中々困難であつた。

戦後の日本選手は外国選手に較べて足の弱いことが目立ち、それだけでなく弱い腕の搔きを一層困難にしているので、これを何とか直したいと思つて、今シーズン前半はビーティング練習にも重点を置いて1日1000米位、しかもこれを200米づつに区切つて、強く打つ練習を入れて見た。

ロング3000米、スプリント等で各種目の別なく長く泳いで漸く20日頃には全員調子を整えて来た。殊に長距離の杉岡等は途中800を10分10秒位で連日泳げる様になつた。只細間だけは風邪をこじらせて中々泳ぎが調整できず苦しんだ。

21日からは三大学に対する鍛練期間として、1日の練習量も5000以下になりスプリントを主眼にして練習を行つた。この期間に入ると疲れもでてきたが尙100米ダツシュを続けて5、6回、50米を6、7回行う事によつてスプリントをつけるべく、短かいが強い練習を要求した。長距離陣は引続いて好調に伸びて行き殊に短距離陣の新人近藤が杉岡達について行けるようになった。併し長いロング練習期間が影響して短距離陣は後半は強くなつたが出足が悪く

好記録はでなかつたが心配はしなかつた。

5月も終り頃になると今度は長距離陣がヘバリはじめ、反対にダツシュが効いてきたか、短距離陣はスピードを増してきた。

6月4日にエントリーなので、3日に記録会を行つた。清水が100米で59秒6の自己最高で好調、長距離の杉岡、金谷がヘバリ乍らも800米を10分17秒位であつた。バタフライの藤家はまだ昨年程の元気はなく2分41秒、背泳は野末、大久保が共に1分11秒、平泳陣は2分50秒を割れず試合には余り望みなしという処であつた。

今年の三大学に対する立教のメンバーとしては、細間がまだ不調の為、200、400が極めて手薄になつたが他の自由形陣が競り合つているのでこの種目のエントリーに一番苦勞した。

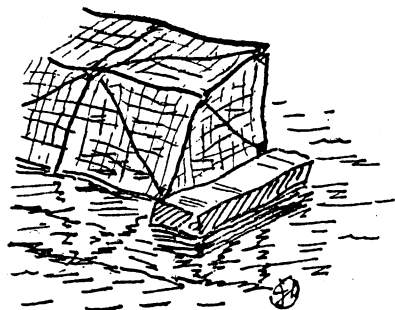
記録会の結果、杉岡、金谷に若手の近藤を加えて400、800に。200に清水、細間、柳瀬。100に清水の他井原、木村のベテラン組を配して試合に臨んだ。

エントリーの決定より試合迄約一週間、各人の調子を整えるべく色々練習量を変え、殊に長距離の杉岡等、疲労が甚しいので極度に量を少くして疲労回復を計つたが、栄養等の点からか中々回復せず、試合に出場する事になつた。

試合は清水が大いに活躍して100米に2位となると共に、400メドレリレー、800リレー共にアンカーで明治を抜いて2位に入り込んだのはよかつた。清水自身としては、余り長い期間ロングばかりやらせたので、後半は目立つて強かつたが、前半のすべりの悪かつた事は監督たる私の責任であるが、オールジャパン迄には仕上がる自信があるので失敗したとは思っていない。

他は可もなく不可もなかつたが、細間をはじめ、長距離陣の不調について、又練習について大いに反省して後日の参考にしたいと思う。

関東学生



水球リーグ戦総評

水球委員

名取正也

5月28日水泳シーズンのトップを切つて始められた関東学生水球リーグ戦は6月30日を以つて全日程を終了した。シーズン初めでもあるし各校共メンバーの編成に苦心した模様であるが、1部、2部、3部共実力は伯仲して見応えのある好試合を展開した。然し技術的には特に見るべき進歩はなく水中テクニクの乱用と無駄なキープが多くフォーメーションの確立したチームは殆ど見当らぬ点など今後の精進が望ましい、ただゲームは益々スピードのあるものとなり、このスピードを生かしたフォーメーションを身につけることが緊要である。

更にチームもレフェリーもルールの研究を一層熱心に行うことが必要で初歩的な間違いを知らずに冒している者もあり、フリー・スローのやり方、これに対する防害、開始時のスタートの並び方等研究問題が残されている。

試合成績は1部6校に於ては大きな順位の変動を来した。即ち日大は戦前の予想通り断然たる強味を示して全勝した。菅原、大島、水垣、田久保等の強力メンバーに新人高木等が予想以上の活躍を示し、チームに穴が無く、競合い、パスワークも優れ対慶大2回戦に延長の接戦を行つた外は危気なく完全優勝を遂げた。2位となつた中央の躍進は目覚しく、始めに日大に敗れたあとは次第に調子をあげ、決勝戦に持込んだ慶応を打取り、輝かしい金星を挙げた、日大に次いで全員穴の無いチームとしてまとまつており、特に出足のスピードは優秀で笹島、田口等のフォワードのシュートの切れ味もよく、ここでも浅沼、橋本、遊佐等の新人の活躍も見落せない。このまま順調によいコーチを得て進めば優勝も難し

くないであろう。

慶大は多数の選手を卒業させてメンバーの編成に苦心した様であるが、佐藤、荒川、山本等の既成選手を幹として善戦したが、中央に敗れた頃を底として次第に尻上りに調子をだし、日大との二回戦には全員必死の闘志を燃やしてよく前半のリードを奪つたが後半反則に自滅したのは惜まれる。伝統に恵まれたこのチームの今後の奮起を望んで置く。

立教は前半戦、好調に乗つて早大を破り、期待されたが、チームの主将でありゴールゲッターである井原が病気により欠場してから苦戦を続け、決勝戦で漸く学習院を破り4位を保つた。

早大の凋落も久しいが、加藤、永富、黒佐、鈴木等の主力に大友、安藤其他有望な新人を擁し長い伝統を誇るチームであるから、夏以後の活躍を期待している。このチームはどういうものか近來攻撃に迫力を欠きオールラウンドのプレイヤーの養成に力を入れすぎ個人の特色を生かすことを等閑にしている様に思われてならない。

学習院はバツクの花山、フォワードの後藤あたりが活躍したが、二年前彗星の如く進出して忽ち1部に昇格した当時の熱を失つた様で、2部優勝の成城に敗れ、入替つてしまつた。然し1部に昇つた成城や、成蹊、法政等は実力迫仲で今後の角逐が面白い。3部では明治が優勝して更に日体との入替戦に勝ち、2部に進出した。明治高校のチームをそつくり入学させたので纏りも良くこれ等1年生のチームの将来は楽しみである。

これ等リーグ戦に出場した学生チームの内、日大中央、慶応、早稲田、学習院、立教、成城、成蹊、明治等は全日本選手権へも出場すると思われるが、

7月3日に終了した関東OB水球リーグの優勝チーム、三水会（慶OB）は推薦で、其他、桜泳会（日大OB）、白水会（中央OB）、稲泳会（早OB）及び関西リーグの優勝校と顔を合せることと成り、全日本の覇権が争われるわけであるが、オリンピック前年であるので、白熱した試合が期待される。

試合のスコアは左の通りである。

1部（2回戦制）

立教 7-5 早大	立教 7-6 早大
慶応 13-2 学習院	慶応 12-0 学習院
日大 15-1 中央	日大 10-2 中央
中央 9-0 立教	中央 11-4 立教
日大 13-0 学習院	日大 13-0 学習院
早大 6-1 学習院	早大 12-2 学習院
慶応 5-3 中央	中央 3-1 慶応
	中央 7-5 慶応
中央 12-0 学習院	中央 9-1 学習院
慶応 15-0 立教	慶応 9-0 立教
日大 10-1 早大	日大 15-0 早大
学習院 2-0 立教	立教 4-3 学習院
	立教 6-4 学習院
中央 9-3 早大	中央 5-2 早大
日大 4-1 慶応	日大 6-3 慶応
慶応 9-2 早大	慶応 10-0 早大

順位

優勝 日大	2位 中央	3位 慶応
4位 立教	5位 早大	6位 学習院

2部

成蹊 17-0 日体	専修 6-10 明治
成城 4-7 法政	都立 9-1 東工
東大 8-4 教育	専修 7-0 東工
成蹊 10-1 教育	専修 5-1 一橋
成城 12-1 日体	都立 3-12 明治
東大 6-7 法政	一橋 3-14 明治
法政 3-5 教育	都立 4-9 一橋
成城 7-1 成蹊	明治 18-1 東工
東大 7-3 日体	一橋 4-3 東工
法政 9-5 日体	都立 2-5 専修
成城 10-3 教育	
東大 3-6 成蹊	入替戦
教育 3-2 日体	明治 11-4 日体
成蹊 3-8 法政	
東大 3-5 成城	

優勝決定戦

成城 8-2 法政
入替戦
学習院 4-8 成蹊

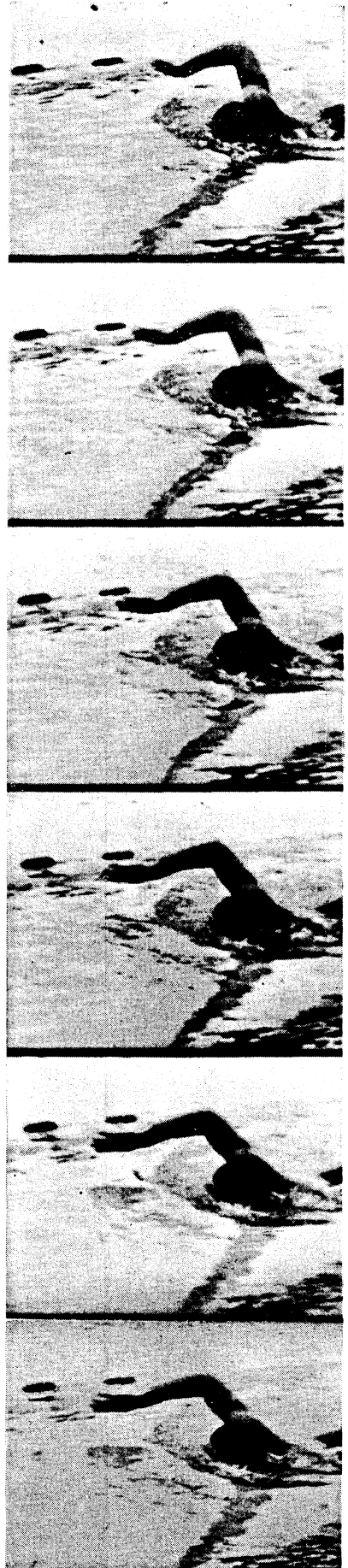
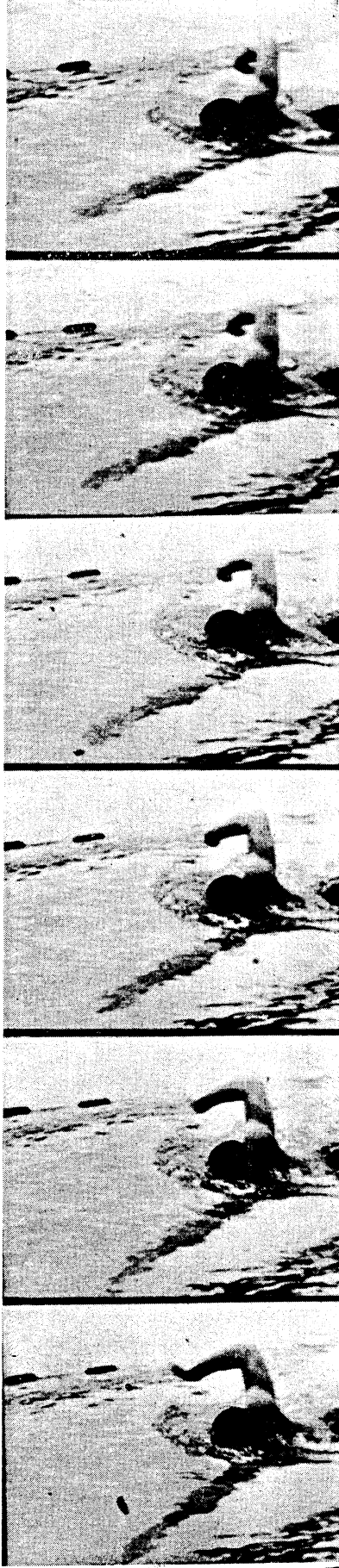
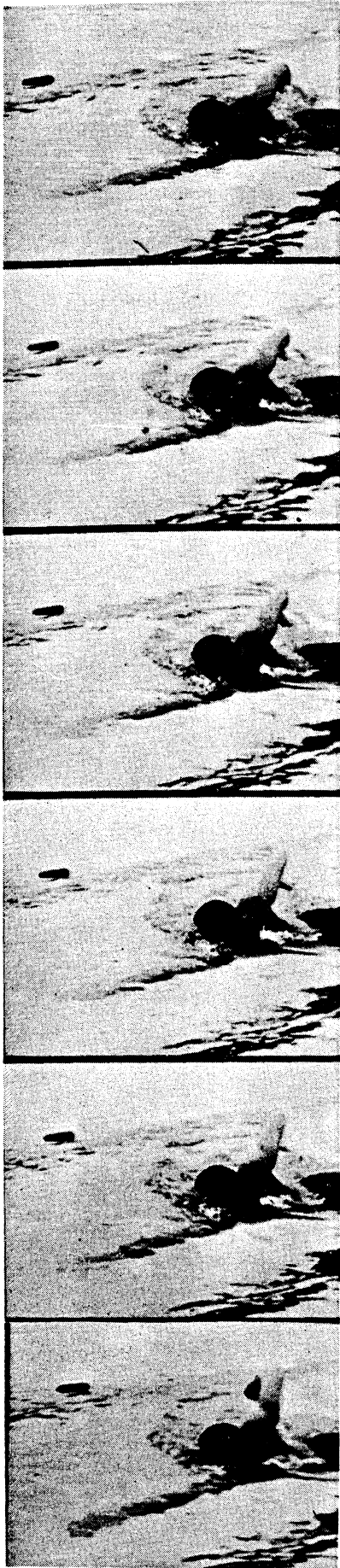
関東OB水球リーグ戦記

OB水球リーグ戦は6月25、6日、7月2、3日の4日間に行われたが、参加4チーム共往年のベテランを揃え華麗な個人技を競い活気あるゲームを展開した。全日本に参加するOB選手の実力打診の意味もあり又8月の日米対抗に行われる全日大、全慶応全早稲田、全中央への参加OBの腕試しとしても興味深いものであつた。結局の左のスコアで三水会が全勝優勝して全日本出場権が与えられた。

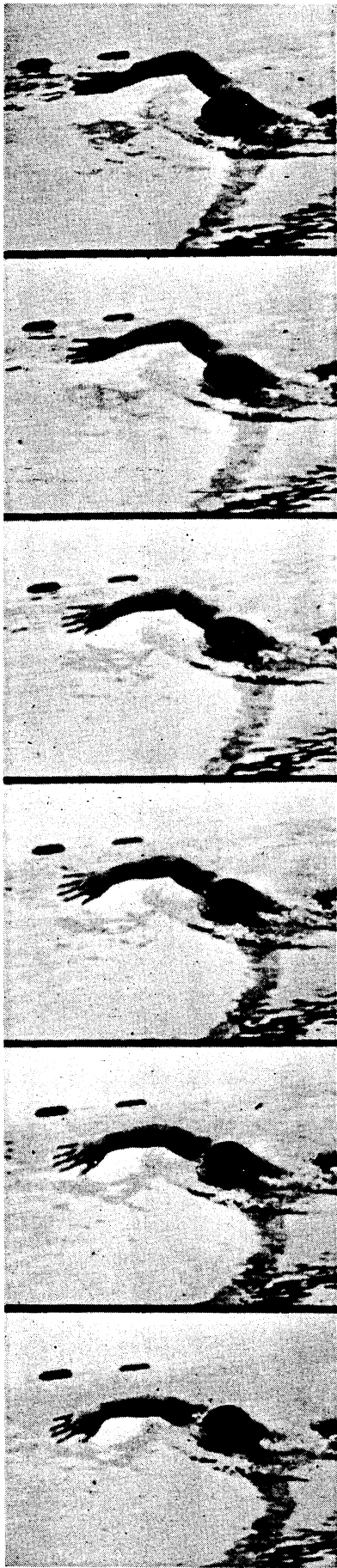
桜泳会（日大OB） 6-3	白水会（中央OB）
三水会（慶大OB） 6-3	稲泳会（早大OB）
三水会 9-3	桜泳会
稲泳会 不戦勝	白水会
稲泳会 10-4	桜泳会
三水会 17-3	白水会

ゲームはOBとして自由な練習から生れた高度の技術を随所に見せ、位置のとり方、パスの球質、各種のリレーシュート、ゾーン戦法等には細かいテクニクの冴えが見受けられ対白水会戦には、三水会小谷、神田と渡つたヘツディングリレーは見事に決つたがこれはボロゲーム初めてのものである。其他、田島（慶）、宮部（日）、谷脇（日）、守田（日）、安藤（早）、飯田（早）、田代（早）、佐藤（中）、増永（中）等のOBは衰えを見せずに活躍した。これ等OB選手の技術が沈滞気味の学生水球チームへのよき刺戟となることを期待している。

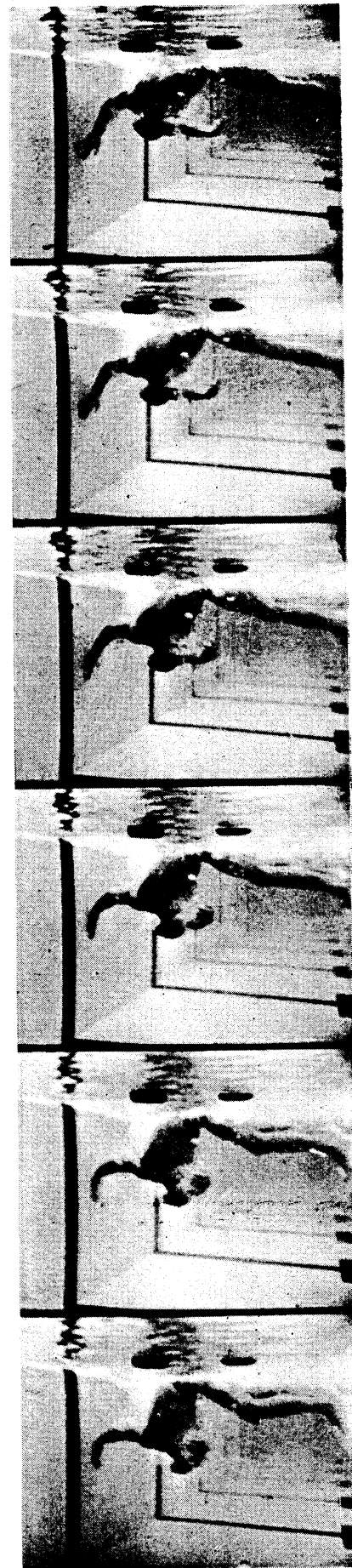
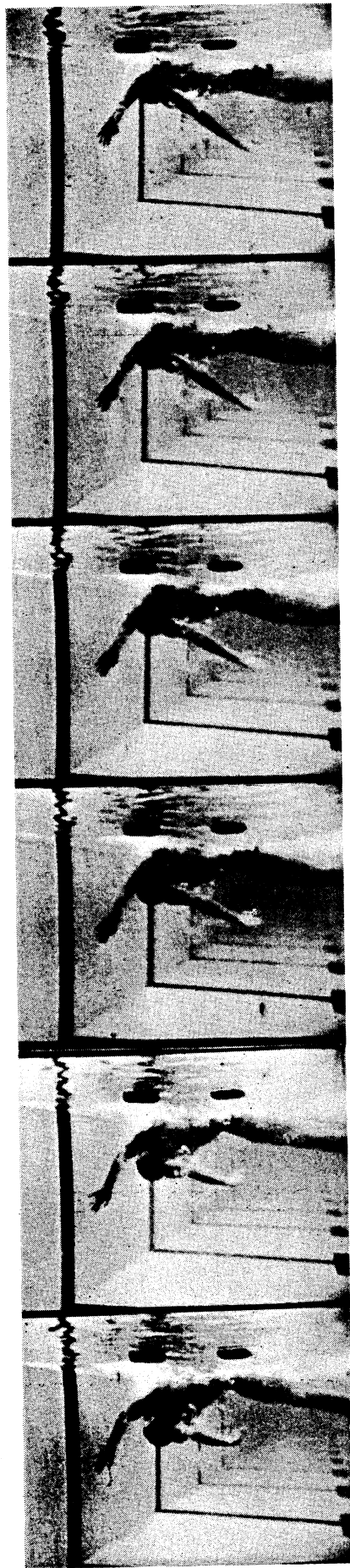
水球の新記録今年度日本選手権東京都予選が7月10日神宮プールで行われたが、第一回戦に全慶応と立川高校が対戦、立川高校は全慶応に20-0と大敗。併し若き立川高校は得点の如何に拘らず、約一時間に亘るゲームに、只一回の反則も犯さずにタイム・アツプの笛がなつた。とかく反則でゲームが中断されがちになるのに較べ、得点が開いたゲームとはいえ、正に気持ちのよい清涼剤、過日プロ野球の某投手がパーアヘクト・ゲームを演じた時、投手の成功を祈つたのと同じく、吾々も完全無反則を祈つたのであつた。



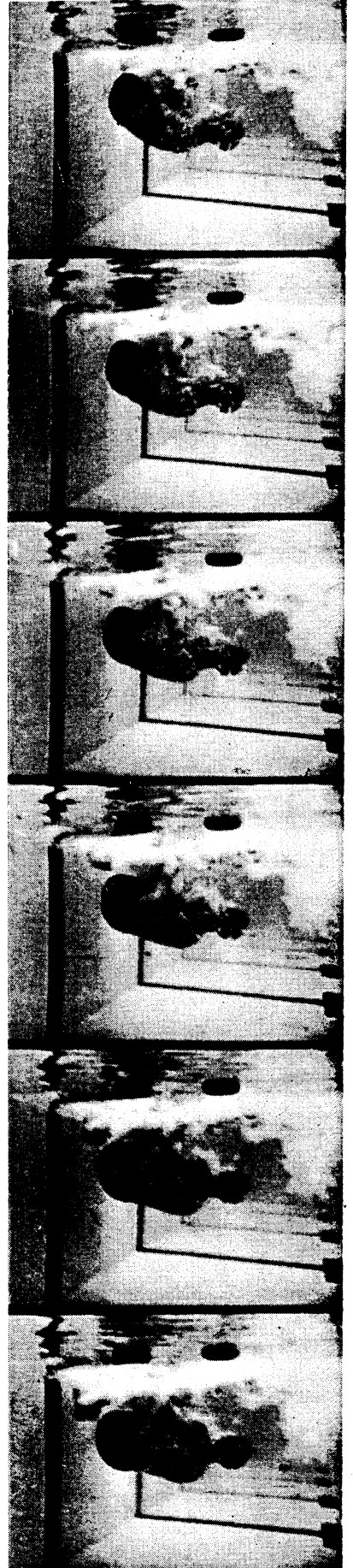
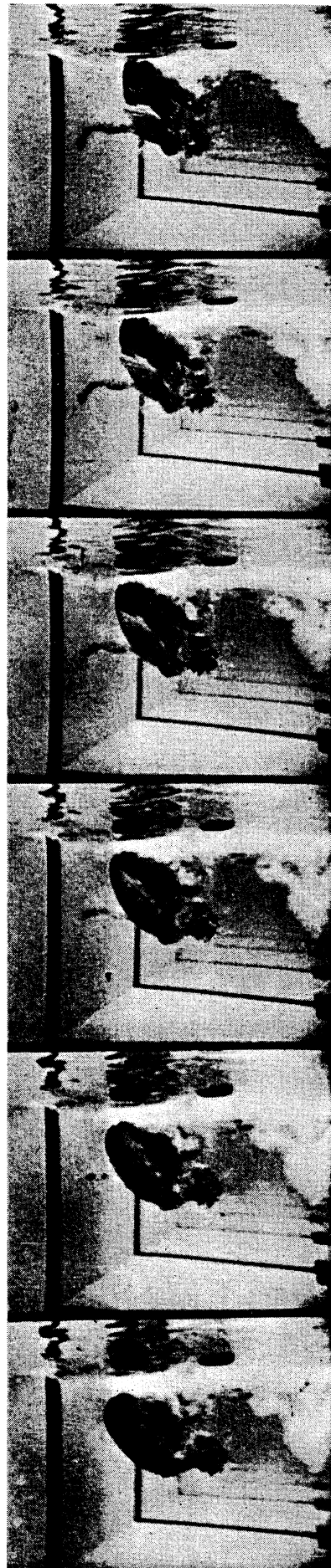
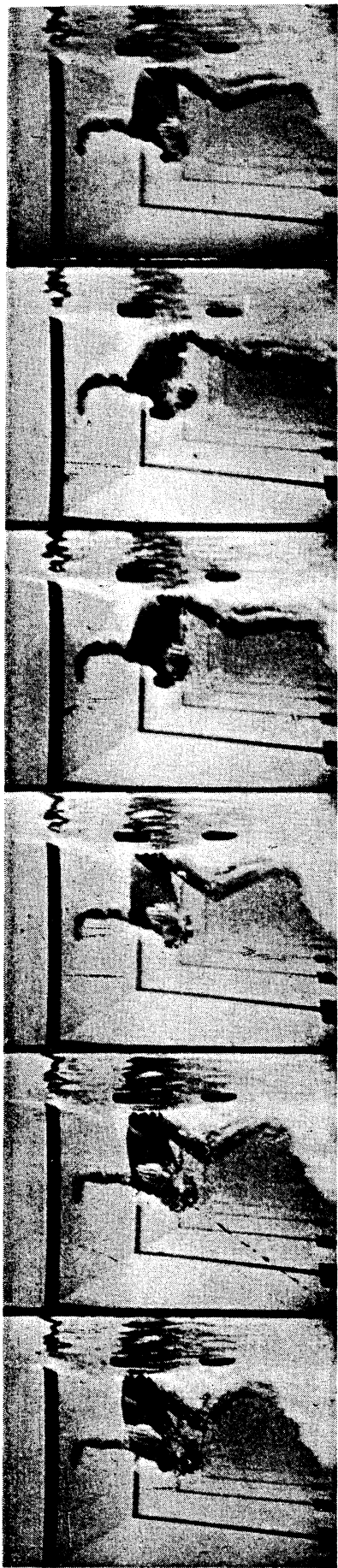
ゴラ選手のクロール・ストローク (1)



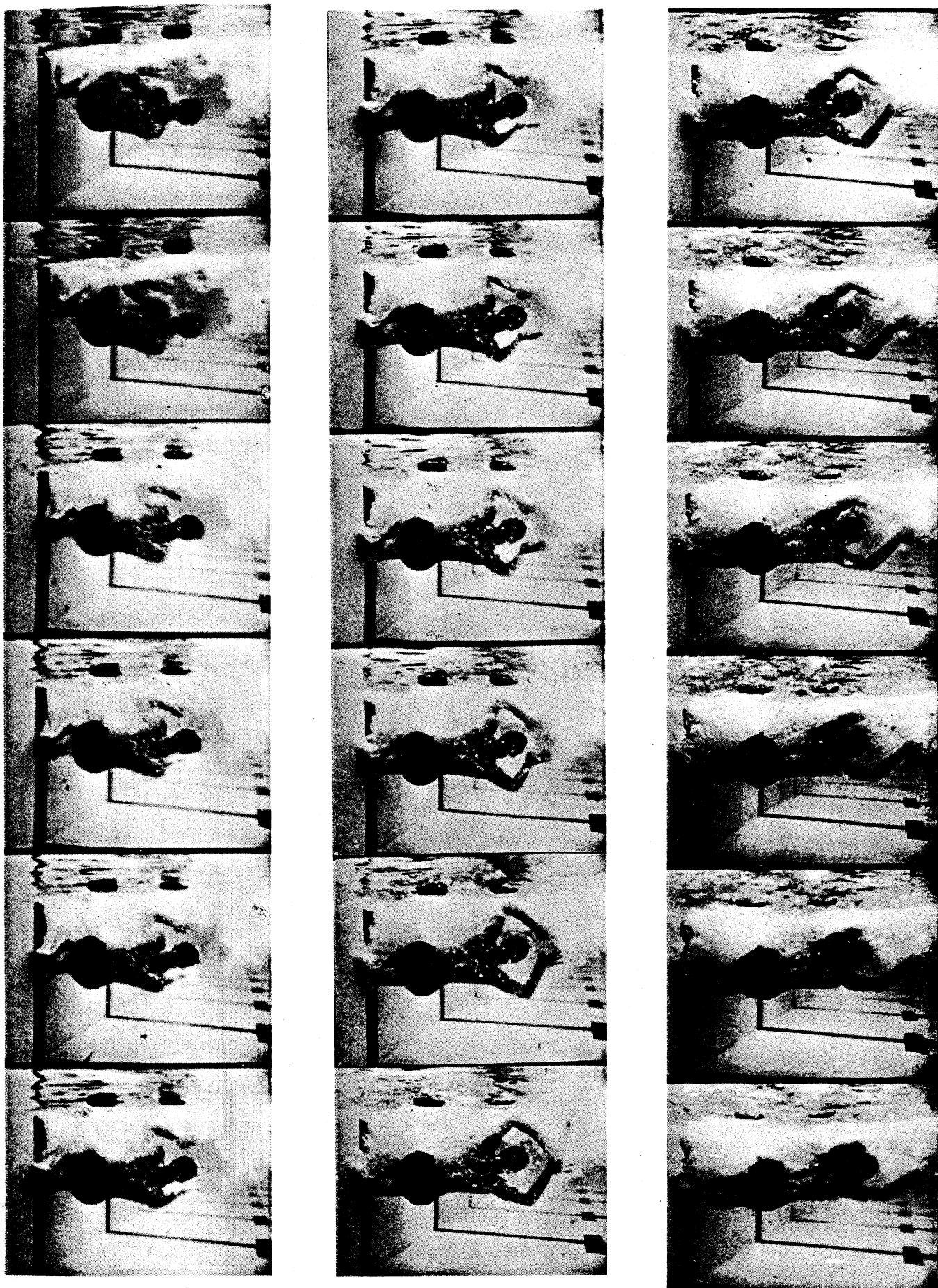
ゴラ選手のクロール・ストローク (2)



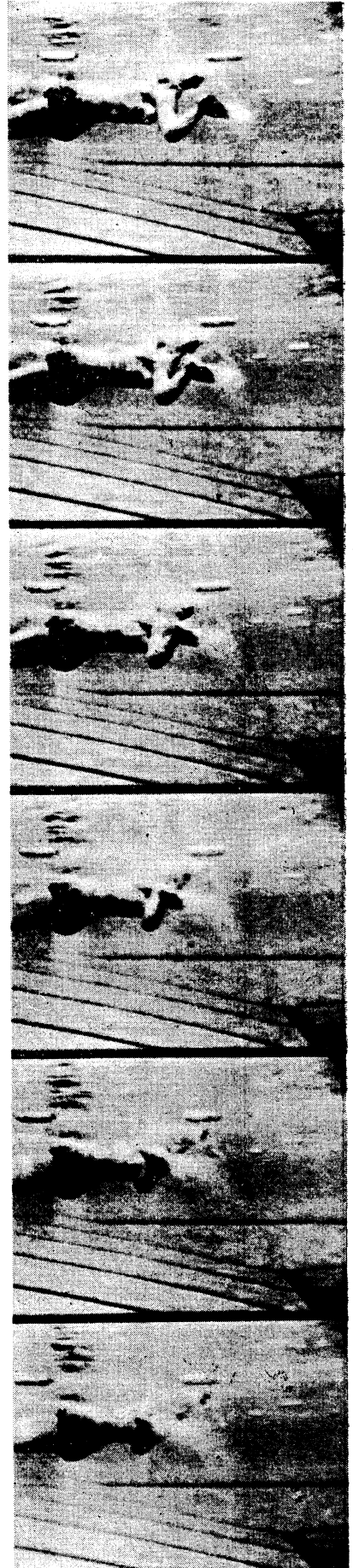
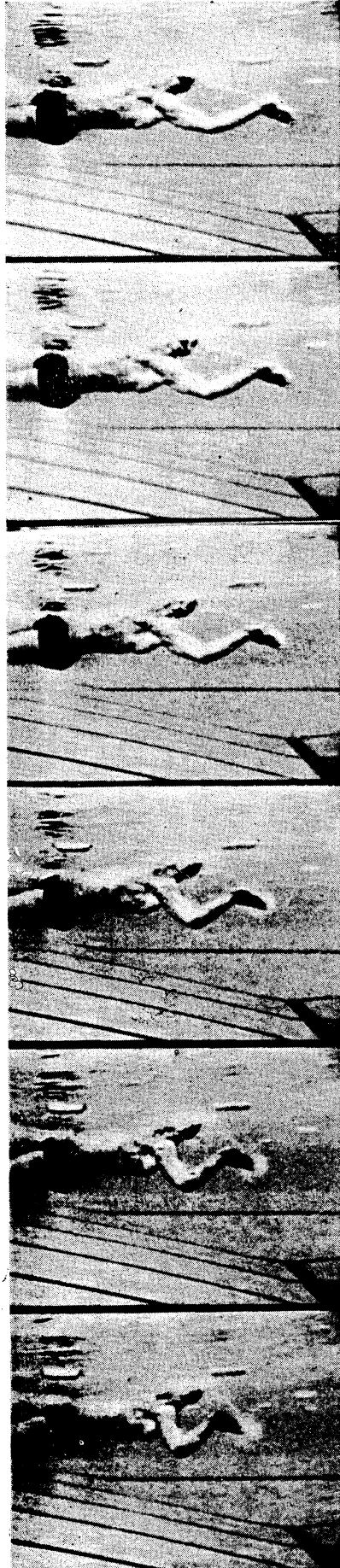
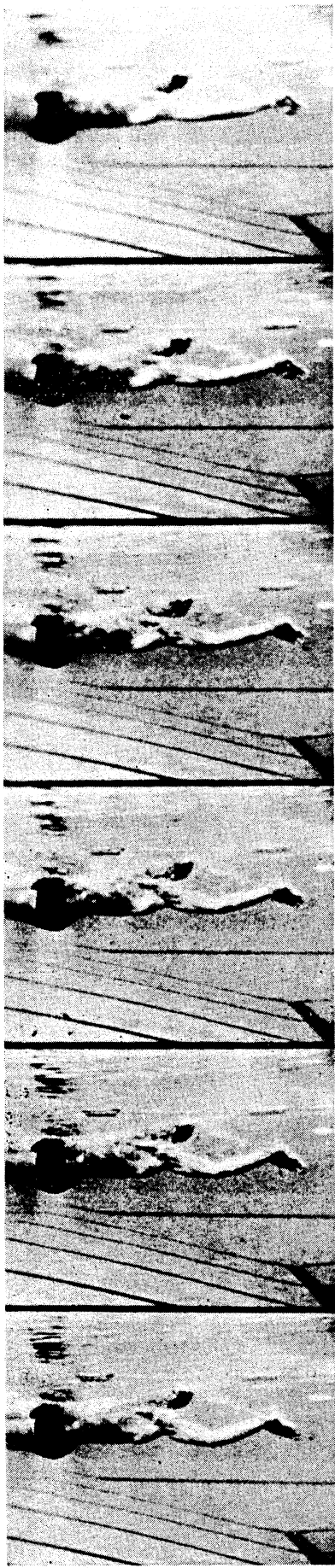
スコールズ選手のサマー・ソウルト・ターン(1)



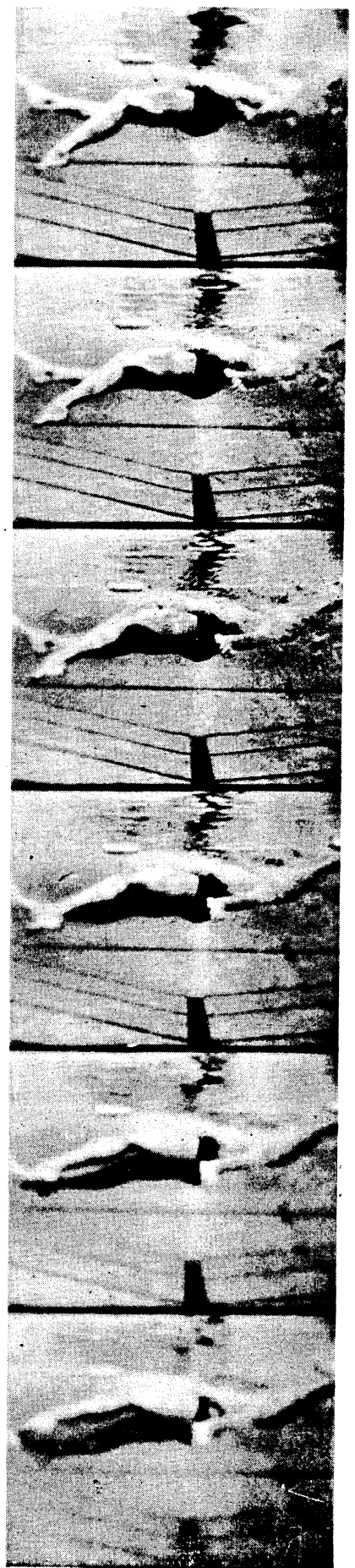
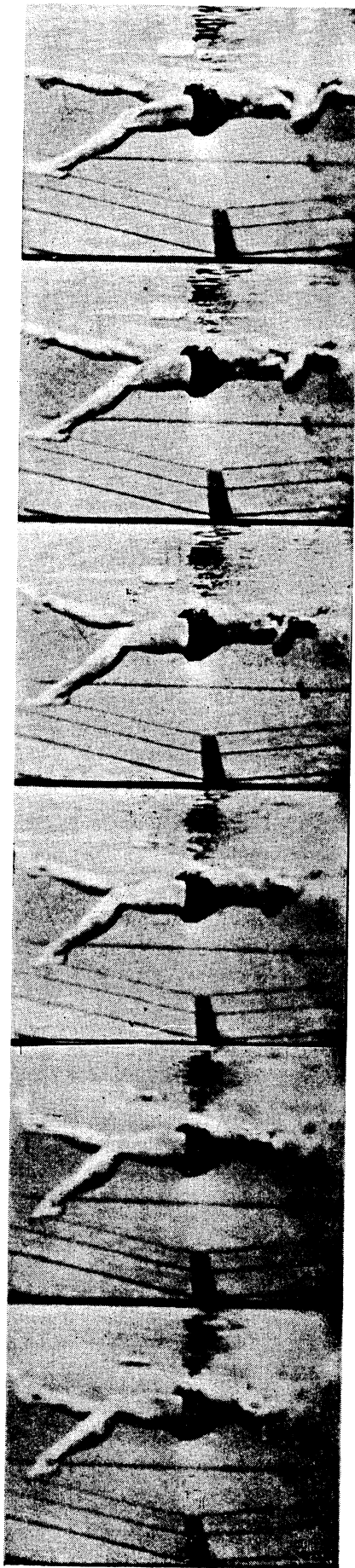
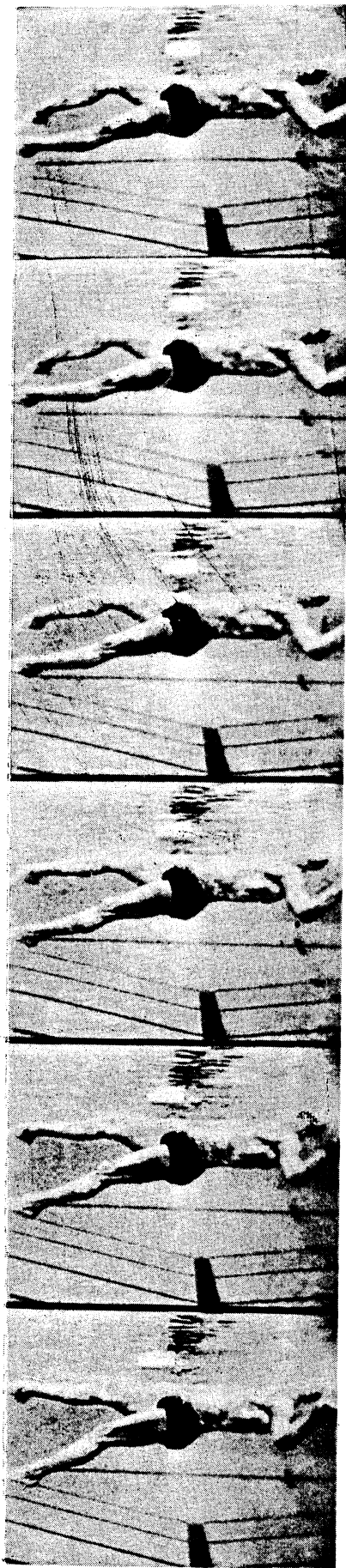
スコールズ選手のサマー・ソウルト・ターン (2)



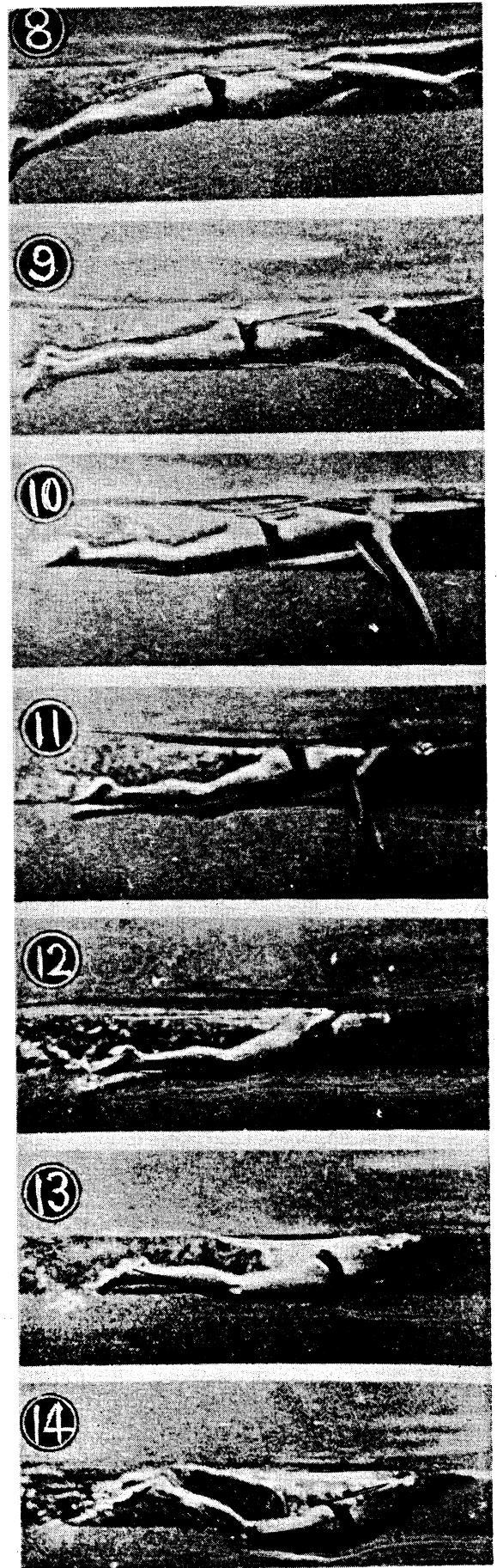
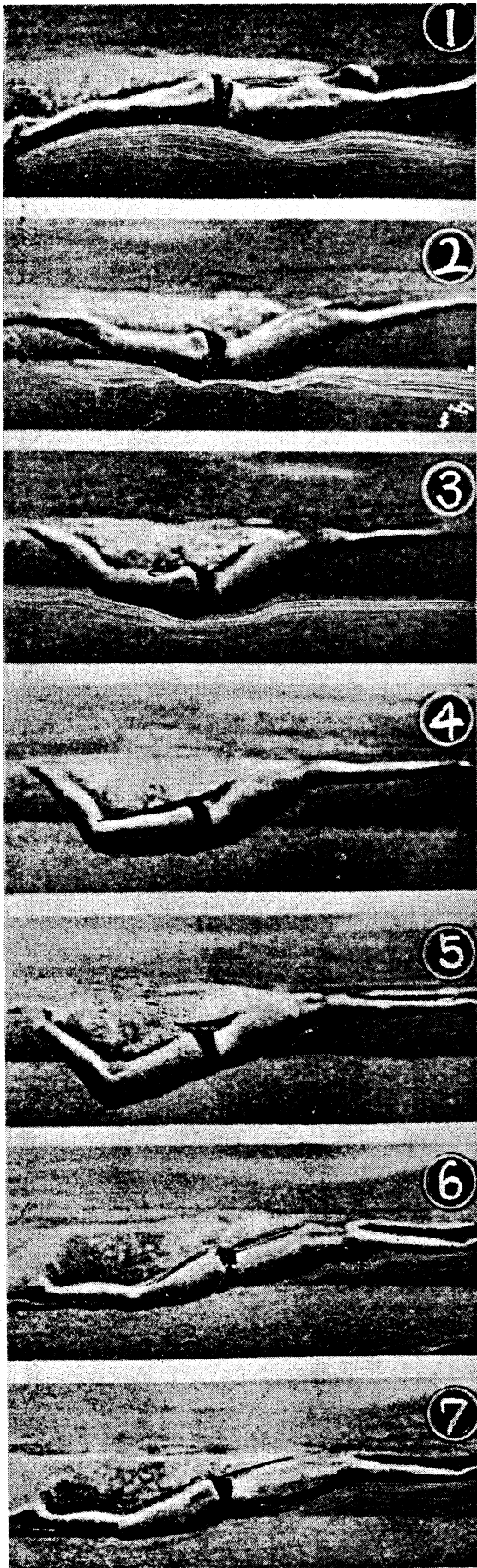
スコールズ選手のサマー・ソウルト・ターン (3)



スタック選手のバック・ストローク (1)



スタック選手のバック・ストローク (2)



タムベック選手のバタフライ・ストローク



あなたの疑問をとく

水泳問答

問 けいれんを起しやすい選手に対し、特別の準備体操又はそれを防止する方法はないか。

答 けいれんは、色々な部位に起るが、たぶんふくらはぎ（腓腹筋、ヒラメ筋）のけいれんのことだと思いますから、これに就いてお答え致します。

準備運動を行う時、脚の運動を疲労しない程度に入念に行くと共に腕立伏臥で腰を高く上げ交互に足を踏んでアキレス腱を伸ばし、ふくらはぎも伸展する。尙母指と他の四指でアキレス腱を掴み、脚下の方へ揉み上げ（母指球と小指球も使つて両手で交互に行つてもよい）、或はふくらはぎの内側を脛骨に沿つて静かに母指で圧迫して筋のこりをとる様にするとうい。

防止法としては、普段行つたことのない陸上の運動で余り走り回りすぎたり、その上余り冷めたい水で永い間ビートイングをやらない様に注意する。又練習後風呂などで暖めると共に前記の様なマッサージ（出来れば腰部や大腿部も）も行いよく疲労をとつて疲労の蓄積を防ぐと共に常にその部位を冷さない様に心掛ける、特に就寝中蒲団から足を投げ出して冷さない様注意せねばならない。（吉田勝平）

問 スランプは一般的に考えていかなることに起因するのでしょうか、又その克服法を御教え下さい。

答 囲碁棋士の言葉でスランプの状態を「トンネルに入った」といいますが誠に至言だと思ひます。真暗な長いトンネルの中になつた一人で入つた不安な気持は1分間を1時間にも感ずるでしょう。気のせいかな汽車の気笛が聞えるようです。スポーツにおけるスランプもトンネルに入った様なものだと思います。

スランプの原因としては、オーバーワークによる筋肉の疲労、最適なフォームを得られないことによ

る無理、食物により充分な栄養即活動力が得られない時、病氣、不摂生、シーズンオフにおけるトレーニングの不足等が考えられますが、これらは何れも「疲労」によるものですから、思切つて練習を休んで休養をするとか、トレーニングを最初の出発点からやりなおすとかすることによつてスランプを脱出できると思ひます。

私はスランプの原因の主要素はトンネルに入つた気持即、精神面の「疲労」からくると思ひます。所謂身体の「疲労」もないのに記録がでないのは何故だろう？ この「何故だろう」が蓄積してトンネルに入るのだと思ひます。日常の何でもないことで気にしていることはありませんか？ プールでつまずいたとか、現在に不満を持つていたりとか、先輩や上級生に叱られたとか等、数えあげたらきりがありません。私は常に強気であれ、自信を持ってといつています。一寸したことが気になる精神面の弱さが、その人の一生のスランプになるかもしれません。

練習記録をだせないで試合になると弱い人は、その当日或はその数日前から精神面でトンネルに入つて居るのです。そういう人は本人の気持も勿論大切ですが、周囲の人があまり汽笛をならして気持をいらだたせることのないように、いたわつて早くトンネルの出口に導くことが必要だと思ひます。

（坂本响一）

問 私の泳ぎは、4ビートといわれ、又かつての東選手のようなといわれ、ある先輩は直すようにいわれますが、どうしたらよるしいでしょうか。

答 4ビートと申しますが、これを細かく観察しますとその種類は千差万別です。

貴方の申します東君の場合は確か左呼吸で、左手を前に突込んだ時に3ツ大きく打ち、右手を突込んだ時（呼吸する時）に1ツ打ち、残りの2ツはウヤ

ムヤに略して合計4ツとなつていたと記憶します。この他、4ビートの代表的な選手に古橋君が挙げられますが、この人の泳ぎは一寸変つていまして、一口にいいますと8ビートのテンポを持つ4ビートです。左呼吸で1、2、3、4（○左手突込み）の内1と4に打ち、同じく右手突込みの1、2、3、4の内、1と2を打つて、あとは休んで合計4ツとなつています。東君の場合は6ビートのテンポをもつ4ビートという事になります。又平均して休みなく1、2、1、2と打つ4ビートもあるわけですが、これは余り見掛けません。

この様に4ビートといつても何処でバタ足を略しているかに依つてバランスが變つてき、泳ぎも全く違つてきます。従つて4ビートの泳ぎは、6ビートに比較して当り、はずれがひどく、場合によつてはどうしても6ビートに直さなければならぬ時もあります。貴方の泳ぎがどんなものか見なければ解りませんが、東君に似ているのなら、悪くはないだろうと思います。私がここで全面的に4ビートは駄目だ6ビートに直しなさいといわないのは、4ビートにはそれなりに左記の様な長所があるからです。

1. 6ビートに比較してピッチが上る事。
2. 腕の搔きは、通常・打脚よりも推進力をもつており、打脚を2つ増すより、ピッチをあげて腕の力を十分に活用する方が、効果的な場合が多い。
3. ピッチが早いので6ビートの人より呼吸が多くでき、ハイピッチな呼吸で泳ぎを調子づける事ができる。

等です。従つて現在迄の統計では4ビートの選手は長距離に成功しております。然し、古橋君はあの4ビートで100米を58秒で泳いでおりました。もし専門的に短距離を練習する期間があれば、56秒位で泳いだかも知れません。むやみに4ビートをほめましたが、基本はやはり6ビートに置くべきです。

具体的なお答はできませんでしたが、以上述べました事で貴方は自分で自分の泳ぎを選ぶ事ができると思います。
(村上勝芳)

問 大野(日大)選手の泳法の特徴について説明して下さい。

答 大野選手の泳ぎの特徴はピッチが上ることです。ピッチが上る以外にこの人の良い処はないでしょう。強いていえば、腕を真面目に搔いている位で

すが、それもとりにたてていう程の事はないと思います。人が1回搔く間に2回搔くというのが、この人の主義で、それでこそあの立派な記録がでたのです。

泳ぎそのものを見てみますと、クロールの技術が今日程発達しない前、今から40年程昔にソロモン群島の土人が泳いでいた時の泳ぎがこうであつたろうと思われる様なものです。謂る2ビートクロールで残りの4ツは少し動かしている様ですが、殆んど水を蹴つておらず、水になびかせているにすぎません。従つて6ビートの方がワン・ストロークで1米50進むとすると、大野君は打脚の推力がありませんから1米位しか進まないという事になります。6ビートの人に比べて伸びのない泳ぎしかできない訳です。その代りにピッチを上げているので腕をどんなにピッチをあげて搔いても脚はそれに簡単についてきます。6ビートの人があしあれ程ピッチを上げれば、どんな脚の強い人でも50米で脚が動かなくなります。彼は2ビートですから腕の続く限り脚はつかれません。

その他、前項の答で書きました様に呼吸が楽である事もピッチの上る泳ぎの利点です。

6ビートクロールは2ビート・トラジョンクロール、4ビート等の経過を経て40年以上の歴史と多くの水泳研究者によつて発達してきたものですが、古橋君や、大野君の様な泳者がでてきて、良い記録をだしているという事実から見て、現在最高の泳法とされているこの6ビートクロールも、人間の体質を最高に生かした泳ぎではないのではないか。或は脚を使いすぎて局部的な疲れのため人間の体力を最高度に生かし得ないでいるのではないかという疑問を起させます。然しこれは明日の課題でしょう。

(村上勝芳)

問 留川公明選手の泳法について説明して下さい。

答 彼は体力があり非常に腕が強い点が特徴で腕を思い切り伸ばし強引に引張つて行く泳ぎである。右手を大きく伸ばしそれに体を乗せて行き、左手はヒヂを曲げて前にだしている彼の足は大きく左右同形のビートをしているが、この足は強く効いている様に見えず、むしろその浮力を利用し腕をより一層強引に搔いている様に思え彼の泳ぎは腕で進んでいるといつても過言ではない。最近右手が肩巾の線で

水に入る様になり相当スムーズな泳ぎになつてきたが、ピッチを上げる為にはどうしても強いビートが必要でより一層のビートングの練習を行う積りである。
(竹林地文雄)

問 足立達選手の泳法の特徴は

答 彼の泳ぎはビートが非常に弱くバタ足の時など進んでいるのか止まっているのか分らない程である。彼の足は左右一度打つてから次に交叉し次の打ちは非常に小さい所謂変則ビートの極端なものである。その上手も左右変形で左手は伸ばしたまま半円を画いて前にだしている。上から見ていると非常にゴゴチなく何処で進んでいるか分らない様に見えるが、左手を掻き始めた時左足を強くビートしているタイミングが非常に良く合っており、この時グンと前に進んでいるのである。右手の掻きはこの左手で進んでいるスピードを持続する程度でここで又一層前進しているとは思えないが彼の泳ぎの特色としては非常にピッチの上る事である、水をキャッチしたら直ぐ掻き始め伸びを取つて泳ぐという事はできない。これは足が効いていないので伸びを取る余ゆりの無い事もいえるだろうが、右手のロスはこのピッチで補っている事も考えられる。この変則ビートの泳ぎはとても変える事はできないのでこのピッチの上る利点を活用し、最初から最大限のピッチをあげて行く練習をする以外彼の活路は見出せないと思う。
(竹林地文雄)

問 先号で、インターバル泳法のことを話題になつておりましたが、我々高校生に適應したこれらの練習方法の具体的なことを、各種目にわけて、おしらせ下さい。

答 基礎的な練習の方法の一例を述べますと、シーズン初めに先ずロングを引きます。これは水に馴れ、泳ぎを固定させるためです。泳ぐ度に泳ぎが変る様では決してタイムは上昇しません。もし泳ぎを矯正するのでしたらこの時期が最適です。このロングと平行してダツシをやりますが、泳ぎがかたまらぬ内にむやみにやつても効果がありません。充分水にも馴れ、泳ぎが固定してくるにつれてダツシの1回数を増して行くと効果的です。

シーズン始めのロングは10万から20万米位泳がないと泳ぎが固定しません。

ダツシは御存じのようにスピードをつけるため

です。

十分なロングとダツシにより、体力もスピードもついてきた後に、インターバルの練習にとりかかります。これはスピードを持続しうる体力を養うためです。これができる、レースコースを引くようになり、自分のでる種目の距離を十分頭にしみ込ませると同時にペースの研究をさせる訳です。

この様に競泳の練習はロング・ダツシ・インターバル・レースコースとこれをうまく取り混ぜてやる事によつて一つの練習型式がなるのですが、一通りやるのに1ヶ月以上かけないと、個々の練習の効果が挙らないようです。

インターバルの練習方法が話題になつたのは、日本選手が400米が弱いという処からでたので、それ程それのみを気にする必要はありません。

(村上勝芳)

問 ドルフインキックを用いるバタフライの指導について練習法を簡単に示して下さい。特に足の練習方法について、

答 同じ名前のD式バタフライではあるが、アメリカ式や特にヨーロッパ式ではさほど重要ではないかも知れないが、我々の泳法では、クロールのバタ足をマスターすることが前提条件ではないかと考えている。何故なら、いくら似たような泳ぎができててもクロールのバタ足が本当に打てない者には到底無駄打ちから脱する事ができないからである。従つてこのことがカエル足からD式バタフライに移る場合の最も苦心する所だと思う。選手によりその程度の差はあるが、莫大な努力を費してクロールのバタ足をマスターした時、そこで初めて両足を揃えたドルフィンなる練習を始めることができるであろう。僕の経験が特別なものでない限り、永い間続けてきたカエル足を捨ててクロールのバタ足を始めた時、恐らく誰もが堪えられない程の苦痛に襲われるに違いない。クロールの選手ならば、ここに到る迄の条件は既に備えている。

揃えた両足は、びつたりつけないこと、しかし余り開きすぎないこと、内側の親指が触れるか触れないか位にする。上下に蹴るより後え蹴るようになる。この間にも足首の柔いことは重要な条件となる。蹴る時、足が水上にでるか、全く水中だけで蹴るかの問題がある。前者には安岡君や石本君がいるが、僕は後者の立場をとる。複雑な条件があり、

簡単にどちらがよいかはいい切れないが、同一の選手が両方を試験した後、優れた方を採つたらよいだろう。
(長沢二郎)

問 潜水泳法をやりたいと思いますが、どういう条件が必要でしょうか、又当初の練習方法を教えてください。

答 日本平泳界は今潜水泳法の出現で不可能とまでいわれていた2分40秒の関門を破る大巾な記録更新の出現を見た。なぜ潜水泳法が大記録を次ぎから次ぎに生み出したのかそれは何んといつても「うで」を最後までかききることの利点からきたこと大である。「うで」を最後迄かくといつただけでも解らない人がいるでしょうが、バタフライの水中にある時のかきとまったく同じなのです。だからバタフライ同様の強い手の力も必要とすると同時にできるだけ長く潜れる練習も必要となるわけ。

練習法においてはロングを泳ぐ時、手を直下に強く、そしてできるだけ延びのある泳法を身につけること。例えば800米泳ぐ時、平均50米を何ストロークで行くか、次ぎに50米ダツシュの時最初の50は全部潜り後のダツシュもできるだけ潜りこの時にスピードある泳ぎを作り上げる。泳ぎができればロングの時もこのような練習が必要、潜水泳法はどちらかといえば初期にバタフライをした選手の上達がめざましいので最初からこの泳法を使うより蛙足のバタフライで手を強くした方が自己の記録更新は早いと思う。シーズン始めか終りに近い時に研究すれば潜水泳法もまだまだ発展するであろう。

(胡麻鶴寿)

問 スタートの規定が変つたそうですが、その方法を説明して下さい。今後の大会は、すべてその方法で行われるのですか。

答 別に、競技規定は変更しない。只スタートの方法をオリンピックに於て行われている方法のように変えて本年から実施することにした。

新 方 法

審判長の笛で競技者は出発線手前1米の線に立つ。出発合図員の「用意」の予令で競技者は出発線について何時でも出発できる飛込姿勢をとる、競技者が充分用意ができたのを見計らつて出発合図員はピストルを打つて競技を開始する。

背泳にあつては競技者を水中に入れ、審判長の笛

で出発線に手をつかまらせる。出発合図員の用意の予令があつてから競技者ははじめて足を上げて出発の姿勢をとりピストル合図で出発する。他に変更はない。

今後もこの方法で行う。(競泳委員会)

問 バタ足の練習でそれぞれの利点、欠点を上げて下さい。

- ① プールサイドにつかまつてやる。
- ② 板をもつてやる。
- ③ ボールを持つてやる。
- ④ 両手を前に伸してやる。
- ⑤ 両手を腰の所につけてやる。

答 クロール泳法で腕、肢にはそれぞれの要求される運動がある訳で(肢の運動に泳ぎの姿勢を正しく保ち、体全体を浮かす、腕の運動を調和しながら叩打をして推進の補助をする。)肢の運動を上述のようなものとすれば、バタ足の練習をする目的が解明される筈である。

- ① の場合は肢の叩打を強め筋肉を養うことができるが、体を浮かす、推進する、感覚がつかみにくい。特に肩の力を抜いて行うことが肝要。
- ② 浮力、推進の感じをつかむこともでき安定して肢を強めることができるが泳ぎが或る程度できとつてからでなければ肢を打つことによつて体をふらせたり板にたよりすぎ効果があがらない。板は体に合わせたもので肩を軟くし、体の重みたをくしてはいけない。掌を板に支える時は泳ぎの時に掌に感ずる水の圧力程度にすべきであろう。
- ③ ボールは円く不安定であり、体を揺らすと、体重をかけすぎる欠点がある。
- ④ 短い距離の場合は板と同様であるが、長い距離の練習には不向きである。
- ⑤ ③④の場合より長い距離の練習ができるが肢が全程強いが、平らに浮いて泳ぐ人以外は難かしい、又呼吸の時に腰が大きく揺れる欠点がある。肢の弱い人は上に蹴上げる運動が強くなる。要するにバタ足の競争がないのだから、早く進むことを心掛けずにバタ足の泳ぎにおける役目を考えて練習することが肝要であり、その目的が適えば①、②、③、④、⑤のどれでもよいと思う。

(根上 博)

問 平常と異つた筋肉が痛む時に泳ぎに無理があるか。

答 具体的に聞かせて頂かなければ診断できませんが恐らくオーバーワークになつて起きたものと思われれます。泳ぎは全身運動ですから主として使われる腕、肩、肢等の筋肉が一番さきに疲労を訴える訳ですが平常気のつかない部位の筋肉がオーバーワークになると痛みます。勿論泳ぎが悪い時は無理がありますので御質問のようなことも起きます。

レースとか頑張つて泳いだ直後その儘休まないで軽い体操をやつて緊張した筋肉をほぐしてやることは筋肉の痛むことを防いでくれます。

(根上 博)

問 クロール泳法で、胸を張つて泳ぐと非常に苦しい、腰が安定していれば無理に胸を張る必要はないと思うがどうでしょうか。

答 胸を張つて泳ぐといつても、程度問題で、胸を張つたために苦しい様では正しい泳法ではない。

肩の運動と、呼吸が楽に行える程度にすべきである。腰が安定していてビートが充分利いているならば、なるべく水の抵抗の少い平らな体位が望ましい。

(太田光雄)

問 疲労が頂点に達している場合の練習方法はどうかしたらよいですか。

答 疲労にも精神的疲労と肉体的疲労とがあり、この両者が同時に襲つてきて一般に疲労とかオーバーワークとかいつているが、どちらかに軽重はあると思う。前者からきた場合は外的(練習以外の)なもの、毎日の単調な練習スケジュールによる「あき」等が原因であるので、この場合は思い切つて練習順序とか、同じ目的乍ら全然異つた練習をして気分転換をしてやる必要がある。

後者の場合は、練習過度によりおこるので、一般には体重が目に見えて減つてくる。この時は食事の

カロリーを増加すると共に疲労度により、1日位水を見ないで休養さすとか、練習量を極度に減らすことがよい方法である。

(太田光雄)

問 クロールの長距離形と短距離形を分ける基準の大体のものをお教え下さい。

答 現在の記録上より見ると短距離選手と長距離選手との分離はできない位、両者共高度のスプリントと耐久力を必要とする処までできているが、選手養成等の点より強いて分類するならば大体次のようである。

短距離はより以上の強力なスプリントを要求されるので体の大きい馬力のある方が有利で、泳ぎとしては比較的上体が高く大きな泳ぎをし、ビートは水面上より大きく叩き、手は前方より一気に搔き上げるような選手。

長距離は体やや小形でもリズムカルなビッチ泳法で、体位はやや伏り気味、足は水中でよく動くような柔い足首を有し、耐久力のある選手。

(太田光雄)

問 鍛練期間中など疲労してきた時、食物は肉類よりむしろ野菜類を多くとつた方がよいと思うが、又その時はどのくらいの分量を補給すべきか。

答 疲労回復する速効性栄養素には、葡萄糖、果糖、蔗糖、麦芽糖があり、緩効性栄養素には澱粉等がある。しかし砂糖、澱粉のような食物は重労働の時は、体内で全部速かに分解されにくいので、筋肉内に残り害作用をなし疲労を覚える。鍛練期間中には、健康保持に絶対必要な蛋白質(遅効性栄養素)と体内における物質の酸化燃焼に必要なビタミン殊にB₁、B₂、ナイアシンを適量摂取することが必要である。ビタミンC(野菜類)は勿論必要であるが、我が国では真夏でもこれを含する物に欠乏することは稀であるから、特別の場合の外、周到的な注意を払わなくとも不足を来すことは少い。(三枝美貴子)

鍛練期間に於ける1人1日の必要栄養量を満すに必要な食品部と分量

	I	2	3	4	5	6	7	8
食品部	緑野菜 黄色野菜	芋 淡色野菜	牛乳 卵	魚肉	豆とその 製品	穀物	砂糖	油脂
分量	250g	350g	220g	100g	100g	450g	30g	25g
備考	ほうれん草 中皿2杯 トマト中1ケ	馬鈴薯中1ケ さつまいも中1本 さといも3~4ケ きょうり中2本	牛乳1合 卵半ケ強	切身 1.5切	味噌汁 2碗 煮豆 小井1.5	米3合	計量ス ン大3杯	計量ス ン大2杯

鍛練期間に於ける1人1日の必要栄養量

栄養量	熱量	VB ₁	VB ₂	ナイアシン	VC	蛋白質
分量	3,300 cal	2.0mg	2.0mg	2.0mg	150mg	100g

問 泳げるようになったが、頭からとびこめない。思いきつて飛出そうとするのですが、足から入ってしまう、要領を教えてください。

答 あなたの質問の時の様子がよくわかります。どの地方の、どのプールに行つてもよく見られる状態ですし、現在上手に頭から飛込んでいる人々でも必ずそのような経験を味わっています。そこであわてないで次の注意をよく守つて練習してごらん下さい。

- ① 足でけつて飛込もうとしないで先ず頭から落ちるという気持で。
- ② 方法としてプールサイドに立ち、そして両手を揃えて耳を挟むようにし、そのまま腰を折つて手を水面にむける(この際、膝は曲げない。アゴをひく)そして手の延長線の方向に落ちてゆく。
腰を曲げる角度は最初45°位が適当と考えられます。
- ③ 以上を何度も練習の後、①②の方法ができる

ようになれば足でできることと腰の曲げる角度を大きくする(腰をのばしてゆくようにする)こととをつけ加えてやつてごらん下さい。

(川島正之)

問 プールサイドからいくら、飛込んでも、胸や腹をうつ、いかにすれば、上手にできますか。

答 次の注意の通り練習してごらん下さい。

- ① 飛出した時の身体の姿勢が水面に平行すぎたりなりません。或程度の角度で頭から入つて行くように飛出すこと。
- ② 胸や腹をうつ人に限つて頭がおきています。従つて飛出したならば必ずアゴをひいて、のばした両手の中に頭を入れて耳を挟むような姿勢(胸は張らない。むしろその逆にする)で飛出す。
- ③ 最初は距離を出さなくて入水の目標を足もとに近くする。そうすると角度がついてうまく入りやすくなります。
- ④ 他の質問の解答もよく読んで参考にすること。

関 西 選 手 権

(気温 32° 28° 水温 27.3° 27°)

6月25・26日 大阪プール(公認)

男子の部

50米自由形	1 山本 新吾 東邦商会 27.5	2 森下 洋介 芦泳会 28.3	3 片山 拓二 清泳会 28.9	3 松浦 善幸 都島工高 10:36.6	50米背泳	1 本村 昭夫 清泳会 33.0	2 宮地 瑩 芦泳会 33.4	3 中川 満 弦泳会 33.6	200米バタフライ	1 川瀬 勝 弦泳会 2:43.6	2 芦谷 文夫 清泳会 2:49.3	3 富岡 吉宏 伊都高 2:50.6		
100米自由形	1 和田仙次郎 清泳会 1:01.3	2 杉原 満弘 鉄道広告社 1:02.2	3 山本 新吾 東邦商会 1:03.4	100米背泳	1 本村 昭夫 清泳会 1:10.9	2 宮地 瑩 芦泳会 1:11.8	3 二見 幸雄 芦泳会 1:14.6	男子飛板	1 佐治 康男 天理高 63.37	2 山本 利則 天理大 58.89	3 岩橋 弥生 近畿産業 58.15	男子高飛込		
200米自由形	1 杉原 満弘 鉄道広告社 2:19.0	2 和田仙次郎 清泳会 2:19.1	3 滝 永人 清泳会 2:21.4	100米平泳	1 窪 昭博 五条高 1:13.3 (大会新)	2 若林 国達 弦泳会 1:17.8	3 三浦 英規 京都大丸 1:20.6	1 星山 正男 甲子園飛込ク 46.18	2 岩橋 弥生 近畿産業 45.20	3 華岡 博 天理大 33.27	女子飛板	1 角倉佐久子 日本生命 53.64	2 宮本まさみ 天理水協 51.42	3 津谷鹿乃子 松蔭女子学 49.44
400米自由形	1 金谷 修作 田辺高 4:49.8	2 八木清三郎 夕陽丘高 4:55.6	3 松浦 善幸 都島工高 5:04.3	200米平泳	1 窪 昭博 五条高 2:43.6 (大会新)	途中 1:16.6	2 新居 貢 清泳会 2:52.2	2 津谷鹿乃子 松蔭女子学 49.44	女子高飛込	1 弘世 初子 関西飛込ク 41.00	2 津谷鹿乃子 松蔭女子学 40.15	3 宮本まさみ 天理協水 37.25		
800米自由形	1 八木清三郎 夕陽丘高 9:59.8	途中 1:03.8 2:23.8 3:38.0 4:53.8 6:09.6 7:26.20 8:43.6	2 金谷 修作 田辺高 10:06.9	100米バタフライ	1 川瀬 勝 弦泳会 1:13.9	2 芦谷 文夫 清泳会 1:14.7	3 松岡 恭助 清泳会 1:15.2							

((((近着の米誌から))))

「ライフ・タイム」

スプリングボードに就て

原 秀 夫

☆…… “ファイバーグラス製の「ライフ・タイム」ダイビングボード……☆

☆……は 貴方の希望する全ての特徴をもつている。立派な外観, ……☆

☆……優れた構造, 柔軟で然も永持ちするし, 然も色は永久に変らない……☆

☆……………☆……………☆

アメリカではプラスチック製品の異常な進歩に伴つて従来, 木材や金属で造られていた, 運動用具がどんどん, 樹脂製品等に取りつて代られているという事は先年来アメリカから来朝した各種のスポーツコーチや選手から聞かされていたが, 愈々飛板もファイバーグラス製が木材, アルミニウムを押し除けて進みつつあるらしい。

☆……………☆……………☆

カタログの宣伝文による主な特長としては次の3点であるらしい。

①値段が安いこと。

グラスファイバー製, 180ドル—195ドル (64,800円—70,000円)

木製ボード, 130ドル—150ドル (46,000円—54,000円)

アルミボード, 220ドル—313ドル (79,000円—113,000円)

つまり木製より単価は高いけれども耐久力がアルミと同様で然も値段がアルミより3割位安いという事らしい。

②柔軟性と長保ちの秘密

技術者の飛板だけについての7年間の研究の結果無数のファイバーグラスの層からできている製品

を安全防水のカバーをほどこして永久的に接合してあるので非常に柔軟性に富み, 長期の使用の場合にも休ませたり, とり換えたり, しばしば乾かしたりする心配が何も要らず3年間の保証もある。

③色が自由に出せること。

グラスファイバー製品であるのでマリブルーでもシーグリーンでも白でも色が思いのままに出るのでプールの外観上非常なプラスになるし, ダイバーも楽しく練習ができて非常に上達する

☆……………☆……………☆

要するにこの板を一旦使つたら他の材質の板は可笑しくて二度と使えません, という訳なのであります。先年来アルミボードについて, 何とか日本でもアルミボードができないかと考えて研究して見たけれども昭和電工大町工場での分析の結果アルミの材質は問題なくできるけれども, あれだけの長尺物を押出す機械の設備が日本ではどこにもなく, 又日本の需要量からいつて, とても不可能だという結論が出て残念至極のことと思つていた。処が今度のグラスファイバーの場合は, 先般名古屋の東海特殊ガラスK. K. でヨットを造つて成功したこともあり, ポリエステル系のものなら充分作れるとの見込みなので, 是非日本製のグラスファイバーボードを一日も早く作つて見たいと考えている。

競泳の指導

宮 畑 虎 彦

【 1 】

学校で一般生徒を対称に水泳を行う場合、第一の目的、すなわち“最少限の必要”は、水に対して自己の安全を守るための知識と技能を身につけさせることである。

この段階を終ると、次の段階に進む。競泳・飛込・水球などの水上競技、各種の泳法、ないしは長い距離を泳ぐ能力を養う遠泳などにわけて考えることができる。

校内にプールがある学校の場合、遠泳主義をとるわけにはいかず、さりとて青少年に泳法をすすめても大して興味をもたず、狭くもあるので、いきおいクロール中心の競泳を主として行うことになるのが自然の傾向である。

すべて競争は人間の基本的衝動の一つである。したがって興味がある。この理由で競泳は青少年に好まれる。また競泳をすれば、はげしい身体活動をするので、身体的発達の上からもよい。その反面、競争は勝つ者にとってはたのしいが、負けてばかりいる者にとってはおもしろくない。その結果、ややもすれば、一部の者だけは熱心にやるが、大部の者は興味を失つてしまうおそれがある。また、身体をはげしく使いすぎて、身体をわるくする者ができることも警戒しなくてはならない。

学級全体を対象として競泳を指導する時は、これらの欠点をカバーする方法を考えなくてはならない。その一つは、競争にヴァリエティをもたせることである。距離と種目に変化すれば、それだけ“勝つ者”の層が広がるわけである。さらに技術を分解して、たとえば足だけ、腕だけの泳ぎの速さの競争、ばた足で押し合いの競争、腕のストローだけで引き合い、あるいはターンやスタートの競争を指導の手段として用いる。そうすると、またそれだけ勝者の層が広がる。そればかりでなく、このように分解されたわざや力の競争によつて、ある者は自分

のわざの欠点を知り、またある者は自分の能力を自覚していつそ熱心になる。水に対する基礎技術も進んで、泳ぎ全体としても改善される。

健康状態については、指導者は、つねに細心の注意をもつて観察しなければならない。一般生徒を対象とする場合には、たとえ競泳の段階にすすんでも、“水上安全”という基本を守つて、どこまでも安全で、健康によく、みんなでたのしむことのできる指導が大切である。

【 2 】

いわゆる課外に、一部の希望者が行う競泳——水泳部員などの——は、その直接の目標は、試合に勝つことである。子供は、何かほしいものがある時、それが得られるならすすんで、どんなことでもする。同じように、試合に勝ちたい青年は、試合に勝つことができるというなら、どんなことでもする。節制が必要といえ水や菓子の量を減らすこともできる。朝早く起きて走ることがよいときけばそれもする。堂々たる勝ちでなければ、ほんとうの勝ちではないと教えられれば、堂々と勝とうと努める。ここに教育の道がある。

【 3 】

競泳となれば、1等は1人しかない。少しでも他にすぐれた点を持っている者が勝つ。競技の成績を左右する要因として、心理学者は次の6つをあげている。

- ①発動力、②適性、③訓練、④技術、⑤策戦、⑥場への適応

これらの統計が、スポーツの作業能となり、水泳の場合には“記録”となつて現われる。

発動力というのは、どういうことに動機づけられて競泳をやるのか、その原因となつている力である。誰でもスポーツをやるのには動機がある。“たのしい”からやる者が最も多く、人格をよくする、体力や健康をよくする、自分を試す、母校のため、

などその順に多い。たのしみにやるというのは、あ
りかたとしては最も正しいであろうが、試合に勝つ
ための発動力としては弱いかもしれない。これに反
し“母校のため”にやるのは強い動機づけとなる。
“ラグビーはやりたい、しかし部に入りたくない”と
いう連中は、“母校”よりは“たのしみ”を追つて
いるのである。

各々のスポーツは、それに必要な質を要求する。
競泳を行う者には競泳に適した質が必要である。ど
のような適性が必要であるかについては十分研究さ
れていない。体格、比重、柔軟性、肺、心臓の強
さ、筋肉、持久力、性格などが研究の対象となるら
しく思われる。足首の柔軟度については、筆者の小
さな研究を昨年（3月号）本誌上に発表した。

訓練については、泳法の訓練（速度）、持久力増
強、筋力の強化、栄養・体養などの生活訓練、場へ
の適応などを含む精神訓練が考えられる。

技術及び策戦の重要性についてはここに説くまで
もない。これらについては、他にしばしば述べられ
ているので、この稿には省く。

“練習には強いが試合に弱い”と評される選手が

いる。これは試合という場への適応がよくないから
である。一般にわれわれの生活は問題の場への適応
であるといえる。常に何か問題があり、それを解決
——すなわち場に適応して生活しつづける。試合に
出る時は“勝たねばならない”とか“予選を 通れば
上々”とか、個人個人によつて“期待される”程度
が異なる。勝つ力があり、本人も“やれる”と信じ
ている者に“勝て”と期待しても不当でない。実力
以上の結果を期待される時には本人が困る。“あが
る”というのはこのような場合におこる精神の不安
定の状態である。試合には相手がある。“苦手”の
相手もある。見物や応援もいる。これらすべてを含
めた試合の場へ適応は素質にもよるが、経験によつ
て改善される。

【 4 】

以上、一般者の競泳指導上の心得を述べ、有志の
競泳指導に関しては、競泳の成績を左右する要素の
概略を説明したが、紙面がつかしたので、以下はまた
の機会を得て詳説したい。（東京高等師範出 自短、
パリオリンピック参加選手、ハワイ遠征チーム 監
督、現在 文部省大学視学官）

城 義 核 先 生 を 悼 む

白 山 源 三 郎

我邦流派水泳の中で最も由緒の正しいものの一
つである小堀流踏水術第九代の師範であり、当代
水泳家としては最も熟達之技に達して居られ、国
宝的存在と云つて過言でないと思われた、城義
核先生が本年1月12日 熊本市で逝去された。惜い
事である。

先生は安政6年12月23日生れであるから、97才
の高齡であつた。水泳で正しく身心を鍛錬された
結果であらうか、此高齡に拘らず終りまで極めて
元氣であつた、此点でも非凡人であつたと云へる
先生は小堀流水泳の名家、熊本の猿木家に権七氏
の四男として生れられ、城家に養子に行かれたの
である。先生の長兄猿木宗那氏、次兄西村宗系氏
三兄小堀平七氏と先生と四人の兄弟とも揃つて小
堀流の達人であつた。猿木宗那氏は熊本で西村宗
系氏は長崎鼠島で、小堀平七氏は人も知る学習院
で水泳師範として就れも多くの高弟を残して居ら
れる。小堀平七先生が現天皇陛下を始め皇族の多
くの方々の指導に当り学習院生徒の多くに教えら
れた事は有名である。

城先生はその末弟として兄達と同様4才の時よ
り有名な小堀水翁につき手解を受け15才では早く

も目録を受けた程で天才的な水泳家であつたと云
つてよい。明治22年に30才で免許皆伝となり、明
治30年に京都武徳会の游泳師範に就任、爾来大正
6年迄の20年間、多数の弟子の養成に当られた。
京都に学習院にも劣らぬ小堀流の泳手が多数揃つ
て居る所以である。

小堀流は踏水術と云つて立泳ぎが本体である、
之は激しい練習を積んで始めて奥儀に達し得るの
であるが、その時は水の中を歩く様に泳げる筈で
ある、先生の游がれる所は余り見る事が出来なかつ
たものであるが、アノ六つヶ敷い立泳が如何にも
陸上を歩く時の様に楽しく悠々と泳がれるのを見
て全く感嘆したものである。

古武士的な先生は自己宣伝を嫌い、公開の場な
どで泳いで見せるなどは偏屈な裡に避けられた。
その為一般的には余り知られなかつたが先生とし
ては御満足だつたのであらう。かと云つて頑固な
のではない、私が競泳に打込んで居ると云うので
時にクロールの泳ぎ方について「こうしなければ
いけないのでないか」と云つて仲々肯綮に当る御
注意を頂いた事などもあつた。

我国水泳界の一つの宝を失つた様に思える。

シンクロナイズド・

スウイミングについて

串 田 正 夫

シンクロナイズド・スウイミングはシンクロナイズ（同調する）という言葉が示すように音楽のリズムに合わせ、同時に2人以上の場合は相互の動作も合わせて泳ぐ、水上競技の一種目であるが、単にリズムに合わせて動作するというだけでなく、主題に調和した衣装、動作（各種泳法及びスタント）の構成によつて、意図する何らかの感じを芸術的に創作表現しようとするものである。広い意味では水中動作を用いてのリズム運動の新分野を開いたものということができよう。したがつて、スポーツ競技として、ショウ（水中レヴュー）として、水泳指導の手段として、それぞれの分野において著しい発展を遂げつつある。スポーツ競技として、これを取り上げたのは、アメリカであり10年前（1946年）既に国内選手権大会を開き今日に及んでいる。本年3月のパン・アメリカンゲームスには水上競技の正式種目として取り入れられている。なお1960年のオリンピック大会には是非水上競技の一種目として正式にシンクロナイズド・スウイミングを入れたいというのが、とりわけアメリカ指導者達の念願であり、さかんに各国に呼びかけ勧誘に努めている現状である。今年の夏東京でアメリカ本場のシンクロナイズド・スウイミングを見て、各選手の演技の正確さ、美事さに一驚したのであるが、日本があの水準に達するまでには可成りの年月を要するであろうが、水泳普及度の高い日本において育たぬ筈はないし、要は現在指導者層の関心の問題にあると思う。今年の夏、アメリカ・シンクロナイズド・スウイミング委員長のノルマ・オルセン夫人一行によつて初めて日本に紹介されたといつてよい。同夫人は日本に対して大きな期待をかけている。日本における生長を心から望んでいるし、米国と対抗できる日の一日も早からんことを心から願っているようである。

私的文書であるが、本年も日本を訪れたいという通知にそえて、東京か大阪で競技会ができないであろうかを書いてある程で、その性急さに面喰つているような次第である。

一般にシンクロナイズド・スウイミングの面白さは、充分解つてきたし、普及の指導次第によつては急速な進歩と普及が期待できるのでないかと思う。それには初歩指導に音楽を用いることで、泳ぎ初めからリズム感覚、創作能力を育てて行くようにすれば、数年の後には必ず立派なシンクロナイズド・スウイマーが生れてくると思う。

考えようによつては日本泳法そのものの中にも既にシンクロナイズ的なものが随分ある。日本泳法の数々の泳形を創作した古人に今さらながら敬服の念を持つとともに、現在われわれの創造性の乏しさにむしろ不甲斐無ささえ感ずる。水泳普及にたずさわる人達には指導面に誠に好適な教材ともなり、水泳指導普及面に全く新しい路が開かれた思いである。基礎泳法を二様に自己のものにしなければならぬところから、競泳指導と何等矛盾しないし、競泳選手生活を経た人達にとつても、身についたレクリエーションとして、永くこれによつて水に楽しむことができるのではなからうか。

初歩指導においてはリズム遊戯として活用し、技術の上達にしたがつて、スポーツ競技としてのシンクロナイズド・スウイマーに進展してもよし、また一方水中バレー（ショウ）に進出する人があつてもいいのではないか。

シンクロナイズド・スウイミングの発達を図るには、まず競技会をもつことが何よりも早途であろうが、それについて、問題になるのは競技規則をどうするかということである。アメリカの国内選手権競技規則は読んだだけで、余りの厳しさに手も足も出

ない感じであるが、最近のアメリカからのニュースによると、本年3月メキシコ市で行われたパン・アメリカン・ゲームの場合もそうであるが、これの国内予選からの F. I. N. A. ルールによつて競技を行っているし、また、他の国内競技でも大会によつては F. I. N. A. のルールを採用している。

F. I. N. A. のルールに関連してのことであるが、このシンクロナイズド・スウイミング自身、芸術的要素を多く持つており、スポーツというよりはむしろ「水中におけるダンス」といつてもよい位である。したがつて問題はその審判方法にあるので、いくら厳正な採点法を取ろうとしても、しよせん審判員の主観による外なく、他のスポーツのように客観的公正さは到底期し難い。現にアメリカにおいても審判方法については、色々論議され、規則も改正に改正を重ねている現状にある。シンクロナイズド・スウイミングは、はたしてスポーツが芸術かという論までなされている有様である。F. I. N. A. のルールにアメリカのそれに比較して見ると、F. I. N. A. のは全文17ヶ条の至極簡単なもので、難易率は考慮されていない。現在アメリカにおいて国際ルールとして、F. I. N. A. のルールに難易率を加味した方法が考えられている。それはフィギュア・スケートのように、まず規定種目を定め、あらかじめ次の5つの各グループ(①ドルフィン、②足先からのドルフィン、③1回捻りを伴うもの、④バレー脚、⑤その他)から1つづつ規定種目を選定し、各競者は同一種目を一様に行い、飛込競技と同様な方法で難易率により採点計算し、これを50%とし、他に従来の F. I. N. A. のルールに従つて、難易率は考慮することなく、自由に演技構成をし、演技の美しさ、正確さの観点から採点し、これを50%として、両者を合計する方法である。

現在の F. I. N. A. のルールは1953年—1956年としてあるから、いずれ改正される気運にあるのであろう。先のノルマ・オルセン夫人の通知では上述のフィギュア・スケート競技のような方法になるのではないかとのことである。現在のアメリカのルールの問題点は、審判の公正を期しようとする余り、自然規則の内容が厳しくなり、この種目の主眼とする芸術的創作性というものから離れ、競技会の演技が段々形式化して来たというのである。競技会を行うことは悪くないが、折角の芸術性を失つては、この種目としての発展性は望めないというところにある

ようだ、アメリカにおいて F. I. N. A. のルールを積極的に採用するようになったことについては、①シンクロナイズド・スウイミングをもつと自由な立場で、自由な表現を許し、内容的に広範囲な進歩発展の余地をあたえ、②この競技を国際的なものに育成し、③その時々規程の解釈によつて競技者が、とまどうことのないように、また規程の内容についての意見の相違やしてしない論争を、こちらで一応終止符を打ちたいというところにあるらしい。F. I. N. A. のルールは内容的にどのような経過をたどつて決められたものか知らないけれども、この競技の性格からして、この程度が案外妥当なところではあるまいか。ノルマ・オルセン夫人の好意によつてオランダのルールブックを入手したのであるが、競技規則は原則的に F. I. N. A. のルールそのままを採用している。さしあたりわが国の競技規則を定めるとしたら、F. I. N. A. のルールによるべきであろう。本年度版の A. A. U. のシンクロナイズド・スウイミング・ハンドブックには巻末に F. I. N. A. のルールが別に載せられている。

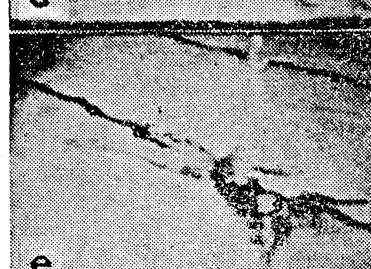
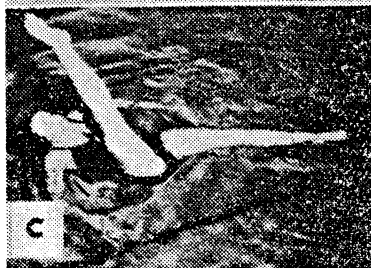
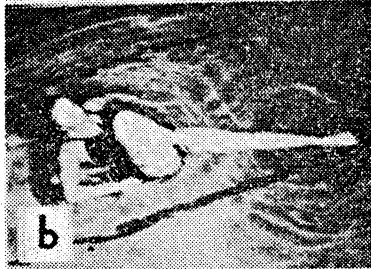
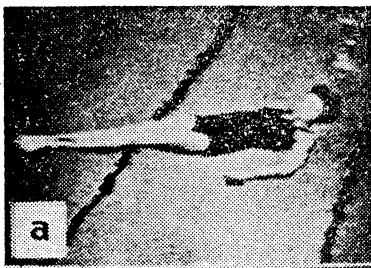
難易率を考慮しない F. I. N. A. のルールによるなら技術的巧拙は別として、日本でやろうと思えば、今でも始めることができる。アメリカのハンドブックそのままのスタントを折り込まなくてもよい訳で、現在できる程度のもので、演技構成することによつて一応競技会はなり立つ、日本泳法と競泳法とを組み合わせ、音楽にうまく合せて、美しい演技によつて、主題に適合した感じを表現しうるなら立派なシンクロナイズド・スウイミングといふことができる。

アメリカのハンドブックそのままのスタントが今すぐできないからといつて嘆息する必要は何もない。いたずらに技術の未熟を云々することなく先ず、手掛けることであり、可能な泳法と泳技とによつて、ちゆうちよすることなく、第一歩を踏み出す勇気が必要である。(元関西学院主将 自短 常務理事 現文部省社会教育局体育課)

× ×

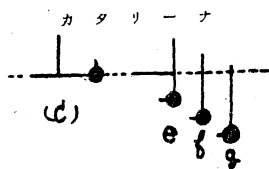
× × ×

シンクロナイズド・スウイミング 基礎技術



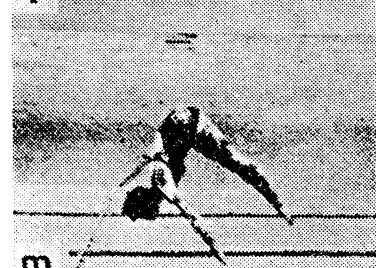
バレレッグ

体を仰向けに伸ばした姿勢から、膝を胸のところまで曲げ、水面直角に伸ばし、再び膝を曲げて元の姿勢に戻る。b, c, の動作は何回繰返してもよく、左右交互、両脚を一緒に行う種目もある。手は絶えず腰の脇で浮きをとる。原則として体が移行しないようにする。

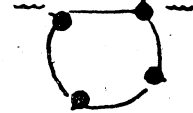


カタリーナ

仰向の姿勢から片脚を水上に真直に伸ばしたバレレッグの型(c)をとり、伸ばした脚を残し、その反対側に体を回転して水中に沈め、垂直の姿勢をとる。次に水面と平行になつている方の脚を踵が水中に沈まぬ中に、垂直の方の脚に合わせ、両脚をそろえて水中に没する。

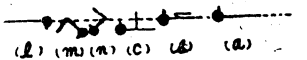


ドルフィン



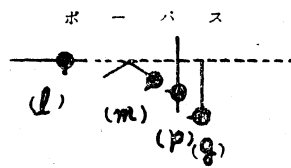
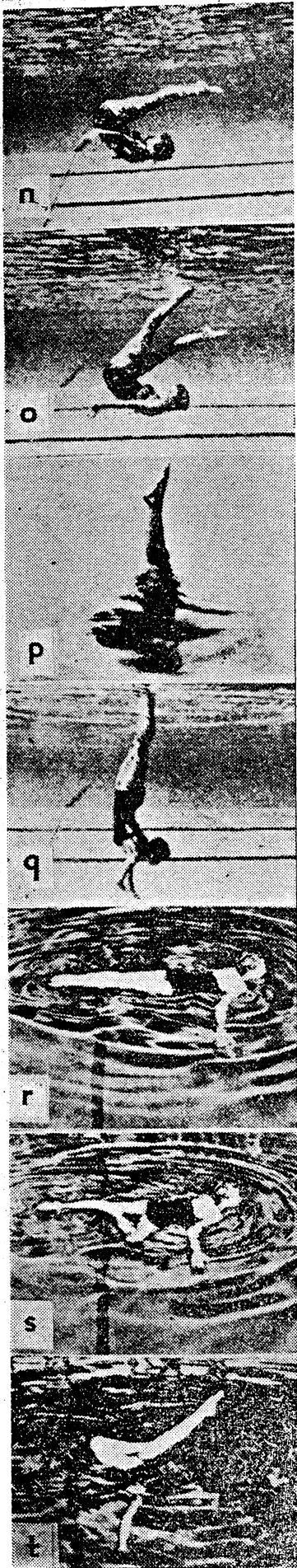
ドルフィン

仰向けに体を伸ばした姿勢から、水中に円を描くように廻り、元の姿勢に戻る。体の移行に伴う手の動作、及び体の反り等写真のように無駄なく行う。その他半回転、一回捻り、バレレッグと組合せたもの、膝を屈げて行うもの、8の字形を描くもの、及び水底を蹴つて飛び上つて行うもの等多種目がある。

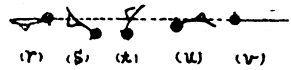


サマー・サブ

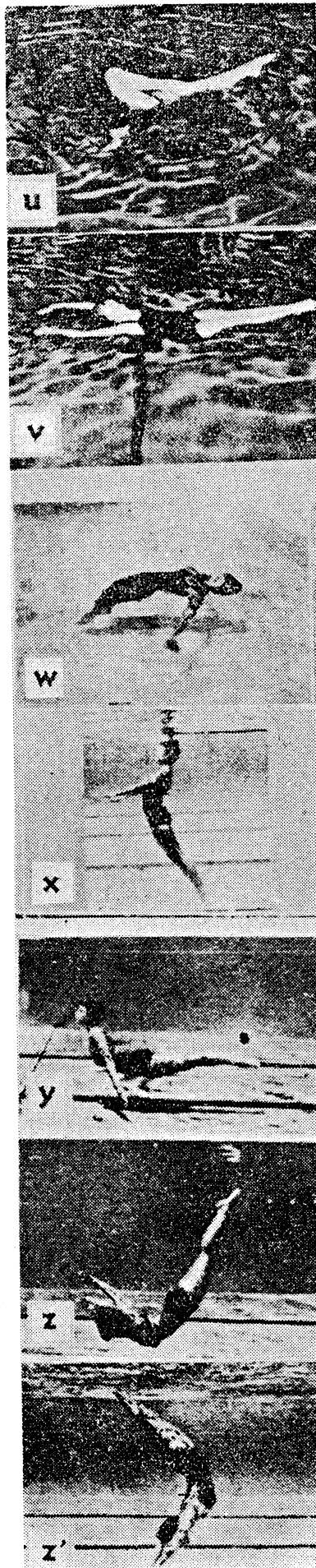
前半回転バレレッグとでも説明したらよいだらうか、俯向の姿勢から回転を行い、写真(c)の次にバレレッグの姿勢をとりつゝ水面に浮び、最初と反対の方向に仰向けの姿勢になる。



ポープパス 俯向に伸ばした姿勢から、えび形の抱え形からの前向き水面飛込で、体を垂直にして沈む。この種目も多種の変形がある。



ソードフィッシュ 俯向けの反った姿勢から片膝を屈げて頭を沈め、足は空中に高く伸ばし、足先の方から仰向けにひっくり返る。足の方への前進を続け、水面に浮んだ時膝を伸ばし両脚をそろえる。



フットファーストドルフィン



フットファーストドルフィン

両手を同時に体測にそつて下から頭の方へにすくい上げるようにし、足先から体を洗め円を描く。写真のように体を充分に反らす。難しい種目の一つである。

昭和30年前半期競泳10傑表

備考: 本表は昭和30年7月16日現在水連に正式報告のあった競技会記録中より採録した。(島田桃一郎)

100米自由形

1	古賀	学	(早大)	57.2	神	宮	6-5	早慶 対抗	
2	谷	訥	(〃)	57.8	〃	〃	〃	〃	
3	鈴木	弘	(日大)	58.4	〃	〃	6-12	三大学対抗	
4	後藤	暢	(〃)	59.2	瀬	高	町	6-19	日大対九州
5	清	健	(立大)	59.4	神	宮	6-12	三大学対抗	
6	堂	好	(明大)	59.6	〃	〃	〃	〃	
7	松崎	義	(中央区)	59.8	神	宮	6-18	東京 憲法	
8	浜岡	明	(中大)	1:00.0	中	大	6-11	中.法記録会	
9	増田	勲	(日大一)	1:00.4	神	宮	9-19	東京 憲法	
10	沢村	一	(桜泳会)	1:00.8	〃	〃	7-11	東京選手権	

200米自由形

1	鈴木	弘	(日大)	2:09.6	神	宮	6-12	三大学対抗	
2	古賀	学	(早大)	2:10.0	〃	〃	6-5	早慶 対抗	
3	石本	隆	(日大)	2:11.8	〃	〃	6-12	三大学対抗	
4	谷	訥	(早大)	2:12.8	〃	〃	6-5	早慶 対抗	
5	浅野	満	(〃)	2:13.0	〃	〃	〃	〃	
6	東野	二	(白水会)	2:13.6	振	甫	7-10	愛知選手権	
7	菅	寿	(日大)	2:14.2	神	宮	7-12	東京選手権	
8	庄司	宏	(明大)	2:14.8	〃	〃	6-12	三大学対抗	
9	細間	喜	(立大)	2:16.2	〃	〃	6-12	三大学対抗	
10	石橋	明	(日大)	2:16.4	瀬	高	町	6-19	日大対九州
10	増田	勲	(日大一)	2:16.4	神	宮	6-19	東京 憲法	

400米自由形

1	大野	司	(日大)	4:43.8	神	宮	6-12	三大学対抗	
2	青木	義	(〃)	4:45.6	瀬	高	町	6-19	日大対九州
3	留木	明	(明大)	4:46.2	神	宮	6-12	三大学対抗	
4	庄司	宏	(〃)	4:46.8	〃	〃	〃	〃	
5	浅野	満	(早大)	4:49.4	〃	〃	6-5	早慶 対抗	
6	池尻	男	(山鹿高)	4:49.6	瀬	高	町	6-19	日大対九州
7	金谷	作	(田辺高)	4:49.8	大	阪	6-25	関西選手権	
8	野田	郎	(明大)	4:52.2	神	宮	6-12	三大学対抗	
9	新山	郎	(日大)	4:52.2	〃	〃	〃	〃	
10	山下	次	(早大)	4:53.2	〃	〃	6-5	早慶 対抗	

800米自由形

1	大野	司	(日大)	9:47.4	神	宮	6-12	三大学対抗	
2	青木	義	(〃)	9:51.2	〃	〃	〃	〃	
3	池尻	男	(山鹿高)	9:57.2	瀬	高	町	6-19	日大対九州
4	八木	郎	(夕陽丘高)	9:59.8	大	阪	6-26	関西選手権	
5	留川	明	(明大)	10:03.0	神	宮	6-12	三大学対抗	
6	金谷	作	(田辺高)	10:06.9	大	阪	6-26	関西選手権	
7	新山	郎	(日大)	10:09.8	神	宮	6-12	三大学対抗	
8	野田	郎	(明大)	10:10.0	〃	〃	〃	〃	
9	足立	達	(〃)	10:13.2	〃	〃	〃	〃	
10	杉岡	美	(立大)	10:14.0	〃	〃	〃	〃	

100米背泳

1	長谷田	景一	治雄	(早大)	1:08.8	神瀬	宮高	6-5	早慶 対抗
2	富田	英利	雄寛	(三瀬高)	1:09.2	瀬野	高山	6-19	日大対九州
3	二宮	昌栄	三隆	(江南高)	1:09.2	毛山	甫松	7-10	神奈川予選
4	田口	昇彦	昇彦	(中大)	1:09.6	振甫	7-10	愛知選手権	
5	青山	三隆	三隆	(中京商)	1:10.2	浜松	6-25	浜名湾高校	
6	山下	昇彦	昇彦	(明大)	1:09.8	神宮	6-12	三大学対抗	
7	梶浦	昇彦	昇彦	(稲泳会)	1:10.2	振甫	7-10	愛知選手権	
8	倉橋	範昭	夫二	(日大)	1:10.8	瀬大	6-19	日大対九州	
9	本村	憲	夫二	(清泳会)	1:10.9	阪宮	6-25	関西選手権	
10	大久保	憲	夫二	(立大)	1:11.0	神宮	6-12	三大学対抗	

200米平泳

1	古川	勝	(日大)	2:36.8	神瀬	宮高	6-12	三大学対抗
2	木村	基寿	(城東高)	2:39.8	高知	7-2	日大対九州	
3	胡麻上	鶴雅	(日本)	2:41.1	マニラ	3-12	高知選手権	
4	戸上	雄博	(日大)	2:43.2	瀬大	6-19	比島選手権	
5	窪村	昌竜	(五条高)	2:43.6	神宮	6-26	日大対九州	
6	吉村	一守	(桜泳会)	2:44.2	神宮	7-11	関西選手権	
7	大石	夫勝	(日大)	2:44.6	〃	6-12	東京選手権	
8	田中	夫勝	(早大)	2:46.4	〃	6-5	三大学対抗	
9	鈴木	富士	(中京商高)	2:47.0	浜松	6-26	早慶 対抗	
10	太田	勝	(早大)	2:48.2	神宮	6-5	浜名湾高校	

200米バタフライ

1	石本	隆	(日大)	2:34.8	神宮	6-12	三大学対抗
2	安岡	信雄	(高知相互)	2:35.2	高知	7-2	日大対九州
3	東山	允則	(明大)	2:41.0	神宮	6-12	高知選手権
4	伊達	英	(〃)	2:41.2	〃	〃	三大学対抗
5	藤家	衛弘	(立大)	2:41.4	〃	〃	〃
6	東川	恭	(中大)	2:42.6	中大	6-11	中法記録会
7	川瀬	勝史	(法泳会)	2:43.6	大坂	6-26	関西選手権
8	佐藤	宏	(明大)	2:44.2	神宮	6-12	二大学対抗
9	加藤	正	(日大)	2:44.8	〃	7-11	東京選手権
10	森	正	(中大)	2:46.8	中大	6-11	中法記録会

第27回早慶対抗水上競技大会

6月5日 神宮プール(50米公認) (気温28° ~水温23°)

100米自由形

1	賀学	早	(26.8)	57.2
2	谷訥	〃		57.8
3	宮本	和昭	早	1:01.8
4	荒川	八郎	慶	1:02.0
5	金原	幸道	慶	1:02.0
6	吉岡	清吉	慶	1:03.0

200米自由形

1	古賀学	早	2:10.0
		(28.4~60.0~1:34.0)	
2	谷訥	早	2:12.8
3	浅野満	早	2:13.0

4	金原幸道	慶	2:21.8
5	吉岡清吉	慶	2:24.6

400米自由形

1	浅野満	早	4:49.4
		(1:04.2~2:16.6~3:32.4)	
2	山下勝次	早	4:53.2
3	横田宣明	早	4:55.4
4	森文太郎	慶	5:02.2

1500米自由形

1	山下勝次	早	19:36.8
2	横田宣明	早	19:51.8
3	笹原康弘	早	20:10.6

4	森文太郎	慶	20:12.4
---	------	---	---------

100米背泳

1	長谷田景治	早	1:08.8
2	鈴木進	早	1:16.4
3	黒佐清	早	1:17.8
4	中野成章	慶	1:25.4

200米平泳

1	田中守	早	2:46.4
		(35.6~1:19.0)	
2	太田勝	早	2:48.2
3	中沢潔	早	2:51.8
4	長久勝之	慶	3:08.2

5 齋藤利一 慶 3:09.2

200米 バタフライ

- 1 横地 森太郎 早 2:54.0
- 2 多田 友久 早 2:54.2
- 3 山下 修 慶 2:55.4
- 4 三井 公 慶 3:03.4
- 5 渡辺 進 早 3:08.4

800米 リレー

- 1 古賀,浅野,宮本,谷 早 9:08.6
(古賀 2:15.4)
 - 2 金原,荒川,吉岡,森 慶 9:34.4
(金原 2:22.8)
- 得点……早大 44 慶大 1

飛板飛込

- 1 馬場 豊 早 85.42
- 2 鈴木 明 慶 66.86
- 3 山田 慶一郎 早 60.39
- 4 増田 三郎 慶 47.61
- 5 木村 安晴 慶 47.33
- 6 深沢 昭夫 早 39.24

高飛込

- 1 馬場 豊 早 77.83
- 2 鈴木 明 慶 65.40
- 3 木村 安晴 慶 46.52
- 4 山田 慶一郎 早 44.20
- 5 田熊 一之 慶 34.94

6 深沢昭夫 早 28.00

得点 早大 7点 慶大 5点

水球競技

- 早稲田大学 対 慶応義塾
- 加藤 GK 山本
永富 LB 山沢
鈴木 RB 佐々木
大田 HB 広瀬
田中 LF 白取
黒安 CF 荒川
安藤 RF 佐藤

0(0—2)
0(0—3)5

慶大5点 早大0点

第20回日立明三大学対抗水上競技大会

6月12日 神宮プール (50米公認) (気温 26。 水温 22° 5)

100米 自由形

- 1 鈴木 弘 日 58.4
- 2 清水 健 立 59.4
- 3 堂崎 治好 明 59.6
- 4 後藤 暢 日 59.8
- 5 井原 孜 立 1:01.8
- 6 木村 正 立 1:01.8
- 7 塚本 利三郎 明 1:02.4
- 8 堀内 良治 日 1:02.4
- 9 長島 務 明 1:03.4

200米 自由形

- 1 鈴木 弘 日 2:09.6
(28.4~1:00.8~1:35.0)
- 2 庄司 嘉宏 明 2:14.8
- 3 菅 毅寿 日 2:15.6
- 4 細間 輝喜 立 2:16.2
- 5 堂崎 治好 明 2:16.8
- 6 清水 健 立 2:16.8
- 7 柳瀬 吉弘 立 2:19.0
- 8 石橋 明 日 2:20.0
- 9 塚本 利三郎 明 2:20.6

400米 自由形

- 1 大野 司 日 4:43.8
(1:05.8~2:18.2~3:31.2)
- 2 留川 公明 明 4:46.2
- 3 庄司 嘉宏 明 4:46.8
- 4 青木 行義 日 4:46.8
- 5 野田 芳郎 明 4:52.2

- 6 新宅 七郎 日 4:52.2
- 7 近藤 至男 立 4:57.4
- 8 杉岡 重美 立 4:58.6
- 8 金谷 雅弘 立 5:00.4

800米 自由形

- 1 大野 司 日 9:47.4
- 2 青木 行義 日 9:51.2
- 3 留川 公明 明 10:03.0
- 4 新宅 七郎 日 10:09.8
- 5 野田 芳郎 明 10:10.0
- 6 足立 達明 明 10:13.0
- 7 杉岡 重美 立 10:14.0
- 8 近藤 至男 立 10:21.6
- 9 金谷 雅弘 立 10:36.0

100米 背泳

- 1 山下 栄隆 明 1:09.8
- 2 野末 俊夫 立 1:11.8
- 3 倉橋 範彦 日 1:12.0
- 4 大久保 憲二 立 1:12.0
- 5 浜崎 健 日 1:12.2
- 6 川野 英隆 日 1:14.8
- 7 中島 常弘 立 1:14.8

200米 平泳

- 1 古川 勝日 2:36.8(日新)
(35.4~1:14.4~1:55.8)
- 2 戸上 雅雄 日 2:43.6
- 3 大石 竜一 日 2:41.8
- 4 木村 靖 立 2:51.2

- 5 石井 弘 明 2:51.4
- 6 原園 輝雄 明 2:51.6
- 7 乾 藤夫 明 2:52.6
- 8 藤丸 武 立 2:57.4
- 9 平井 牧 立 2:59.6

200米 バタフライ

- 1 石本 隆 日 2:34.8
(32.6~1:09.8~1:52.0)
- 2 東山 充 明 2:41.0
- 3 伊達 英則 明 2:41.2
- 4 藤家 衛 立 2:41.4
- 5 佐藤 宏史 明 2:44.2
- 6 加藤 正美 日 2:49.6
- 7 竹井 哲彦 日 2:51.4
- 8 黒田 藤樹 立 3:01.4
- 9 井上 清介 立 3:11.6

800米 リレー

- 1 石本,鈴木,青木,大野(日大) 8:53.2
- 200米(正式)石本 2:11.8 鈴木 2:12.0
青木 2:14.6 大野 2:14.8
- 2 細間,金谷,近藤,清水(立大) 9:01.0
" (正式) 細間 2:16.4
- 3 庄司,堂崎,留川,野田(明大) 9:01.2
" (正式) 庄司 2:15.4

400米 メドレーリレー

- 1 倉橋,古川,石本,後藤(日大) 4:33.0
 - 2 大久保,木村,藤家,清水(立) 4:38.2
 - 3 山下,石井,伊達,堂崎(明大) 4:38.2
- 得点 日 88 明 52 立 32

日本水泳連盟
機関誌

水泳

第106号

昭和30年7月20日印刷
昭和29年7月25日発行

日本水泳連盟

編集兼 藤田 明
発行人

印刷所 株式会社 成島印刷所

東京都中央区日本橋本石町3の4

電話日本橋(24)1701・6509・7082

頒布価格 1年分 (年4回発行)

郵送料共 円300.00

東京都千代田区丸の内2-2
丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟
申込所

電話和田倉(20)3090・4885番

振替口座東京5178番

水 球 競 技
指 導 の 理 論 と 実 際

A 5 判 124 頁 頒 価 100.- 送 料 16.-

日 本 水 泳 連 盟 水 球 委 員 会

昭 和 30 年 6 月 20 日 発 行

日 本 水 泳 連 盟 機 関 誌

第 107 号

水 泳

10月発行予定

B 5 版 年 四 回 発 行 頒 価 300.-

水 泳 年 鑑

A 5 判 240 頁 頒 価 250.- 送 料 50.-

GOLD KING

日本水泳連盟規格

ナイロン 競泳パンツ

ナイロン 女子用競泳着

【註】 従来アルモノとは型が違います

各有名運動具卸店
百貨店
小売店
にあり

東京都台東区浅草上平右エ門町一番地

有限会社 山吉メリヤス

電話 (84) 三三六二番

日本水泳連盟規格品

水泳界の第一線を行く 競泳着は (NISSUI TOKUNAGA) 印と御指定下さい

最良の水さばき最強の品 (NISSUI TOKUNAGA)

練習用は NISSUI 印
男子サージ製ボタン付
1着 ¥130.-

各水泳連盟
各実業団用
各大、高、中学校 } 御指定店

各校指定品製作致します

カタログ送ります

ナイロン・網・アトラス 製造
競泳用品

徳永運動具店

東京・両国国技館前 TEL. (63) 1891番